国民のがん情報不足感の解消に向けた 「患者視点情報」のデータベース構築と その活用・影響に関する研究班

2013年 「がん情報の不足感」実態調査 報告書

平成26年1月17日

株式会社QLife(キューライフ)



目次

	食の背景と目的】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【結	論の概要】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
【調	査実施概要】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
【調	査票】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
【調	査結果の詳細】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
1.	あなたの周りにがん情報が充分にあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
	がんの情報を発信したことがあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
	「情報発信したいと思ったが、しなかった」理由は何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
4.	情報発信の方法は何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
5.	情報発信の内容・スタイルは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
6.	情報発信をした目的・理由は何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
7	情報発信した結果、他人から反響があったか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	反響者との交流で、自身のがん情報も充実したか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
a	情報発信して良かったか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
10.	情報発信して良かったか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
11.	「特定の治療法の効果や副作用」情報を発信したことがあるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
12 .	「特定の治療法の効果や副作用」情報の発信時に、別の情報源で確認したか・・・・	42
13.	「特定の治療法の効果や副作用」情報の発信時に、「医療者でない」明記したか・・・	43
11	がんの治療法の情報発信には、他の情報とは違う配慮をすべきと思うか・・・・・・・・	44
	がんの治療法の情報発信時にすべき配慮とは、具体的に何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
	がんの治療法の情報発信時にすべき配慮を、実際にしているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
10.	が1007/11/M/A07 日代元 日时 C 7 **********************************	7/
17.	「将来への不安」の度合いは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
18.	「家族や近親者との関係」の状態は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
19.	「病院治療以外の治療(サプリメントや針灸など)」の実施度合いは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53



【調査の背景と目的】

■調査の背景:

我が国では、がん対策推進基本計画が「国民の情報不足感の解消」を最重要課題の一つとするなど、がんに関する情報が不足していると言われる。

がんは国民の多くが患者当事者ないし家族として関わる可能性が高い深刻な病気の一つであるが、告知の是非に始まって、その治療法や終末期のケアに至るまで、その対処法はますます多様化している。医学や診療技術の著しい進歩に加えて、さまざまな意思決定の主体性が患者側に移行しつつあることが、この多様化に拍車をかけている。

そこには、いわゆる「情報の非対称性」以上の問題があり、すなわち医療者も情報不足に陥っている可能性がある。 まして患者や家族が、ただでさえ命のリスクに大きな心理負担を負っているなかで、こうした多様な選択肢を(でも限りある医療資源のなかで)、納得する形で乗り越えていくためには、充分な情報が必須であろう。

この課題を解決するため、2010年に基本的な実態把握を目的に第1回調査を実施し(N=6560)、2011年に「治療法についての情報不足感」「患者会との接触」にフォーカスして実態把握するため第2回調査を実施し(N=6207)、さらに2012年に「医師からの治療法の説明」実態にフォーカスして第3回調査を実施した(N=2210)。

<次頁以降に過去3回からの調査の流れをまとめ>

■調査の目的:

過去3回の調査では情報の「受信者/利用者」としての患者・家族の実態や、課題解決の糸口を探ってきたが、実際には「発信者」としての役割もある。内容や表現を患者視点のものに変換することで、より利用しやすい情報となって流通する効果が期待できるだけでなく、発信行為を通して発信者自身が情報を整理できたり、他人から反響を得ることで内容を客観視できたりといった副次的な効果も大きいと思われる。

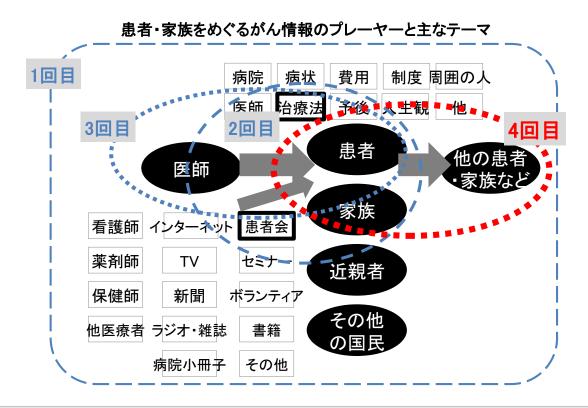
特にインターネットが出現して以来、一般個人が情報発信者となり得る機会は急速に広まっていることもあり、国民が主体的に情報不足解消へ取り組んでいくことは、「国民のがん情報不足感」を解消する鍵となり得る。

そこで今回は、「がん患者・家族の情報発信の実態と、その意義や課題を浮き彫りにする」ことを目的に調査を行った。

※本調査は、厚生労働科学研究班『国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環として行われ、当班の代表者である中山健夫・京都大学大学院教授に監修を受けたものである。また調査実施にあたり、京都大学医の倫理委員会の審査承認も得た。(承認番号 E1253)



■過去3回の調査と4回目の位置づけ



■1回目■2010年調査(N=6560)の概要

目的

情報不足の実態確認と、 情報不足の課題分解(メカニズム確認)と、 "患者視点"とは何かの正体を確認

結果

- 1. 物理的な情報不足は、確認できず
 - ・充足派/不足派は半々
 - ・「接触情報源の有用度」と「充/不足感」に相関なし
- 2. 問題のボトルネック(律速)は、なし
 - ・「情報が非存在」 「未充実(質/量不足)」 「未整理(散在)」 「アクセシビリティ」 「当人事情(面倒、苦痛等)」
- 3. "患者視点"の意味は、定義できず
 - 実際の視点は多様
 - ・"患者視点"という言葉が「不足感」を刺激・増幅
 - 「医師は患者視点でない」潜在意識の存在を示唆

⇒ 「情報不足」と 断定できない可能性も

いずれかの改善で → 大幅解決が

- → 八幅解決が 見込めるものではない ("選択と集中"はできない)
- ⇒ 対立意識、被害者意識が 実態である可能性



「情報不足感」とは、客観的物理的な不足でなく、 感情によるところが大きい可能性 (情報不足"感"の言葉通り!)



■2回目■2011年調査(N=6207)の概要

目的

情報不足感の解消に有効可能性が高い「感情面のアプローチ」の実践的方法論の糸口を明らかに

結果

「治療法(※)についての情報不足感」の実態 ※1「治療法」=「"情報不足感"の最大対象」(2010年調査)だから

- ・「(保険制度上の)先進医療」「標準治療」の認知・理解は低く、「情報不足感」とも相関がある
- ・治療法選択に満足した人の理由は、

「主治医」「信頼」「説明」が主であり「情報」「知識」は上位でない

- ・「患者視点情報を提供された」と感じる最大公約数的パターンは・・・
 - "「告知」タイミングで、内容に「費用」「メリット」を含めて、「丁寧」「正確」に、 かつ「家族」「インターネット」を考慮されて説明された"場合

「患者会(※2)との接触」の実態 ※2「患者会」=「"有効性"高く、"患者視点感"が高い情報源」(2010年調査)だから

- ・「患者会」の具体的イメージない人が多い
- ・患者同士の交換機能が評価される一方で、外観が否定されがち
- ・参加者の参加理由は、「実践的ノウハウ」より「メンタル上の効果」
- ・不参加者が参加したくなるには、カルチャーが変わる(と伝わる)ことが必要



情報不足感を軽減するには、 "主治医からの説明が何よりも影響大"で、 "治療法選択時に「先進医療」「標準治療」を併せて説明"が 有効な可能性が高い

■3回目■2012年調査(N=2210人:患者・家族のみ)

目的

「医師からの治療法の説明」の実態と、その「情報不足感」との相関を確認しつつ、 治療法の「良い/悪い説明の仕方」の最大公約数確認

結果

「医師からの治療法の説明」度合いと情報不足感とは相関あり

- ・「他の選択肢の説明」「選択根拠」「デメリット」の説明が不充分だと、 患者・家族の納得感が下がり、あとあとまで「情報不足感」を訴える
- ・医師説明の前後に治療法を自分で調べた患者・家族は6割で、 説明「後」よりも「前」に調べる人の方が、納得感が高い。
- 調べ方を医師からアドバイスされたのは3割

治療法説明の最大公約数はあるが、「厳しい時」の現場には不適合

- 「患者視点で、デメリット面も丁寧に、納得感を見ながら」が良い説明の最大公約数
- ・ただし「厳しい見通しの告知」理想像は多様で、かつ人により真逆のケースもあり、 多忙な医師が実践するには非現実的なほど



国民向け情報データベースを作るには、

- ●「医師が治療法を説明する際に使いやすい」が重要要件
- ●「医師説明の予習ツール」と位置付けるのが良い可能性



【結論の概要】

■結論:

がん患者・家族のうち自ら情報発信した人は、その情報発信によって高い満足度を得ている。「他人・社会のため」を 目的に発信するケースが多いためか、ほとんどの発信者が他人から何らかの反響を得ており、それが一定期間の 交流にまで発展することも珍しくない。そのため「自分の情報もかえって充実」した人も多い。

ただし問題は、情報発信するのが「9人に1人」とまだまだ少数派であり、その2倍の数で「情報発信しようとしたが、実 際にはしなかった」人が存在することだ。発信の障害となったのは「知られたくない」といった本人の内的事由ではなく 「方法・場所・きっかけがない」という外的事由が多いため、改善余地がある。

「情報不足感」と「情報発信状況」とは相関がある。情報が充足している人ほど情報を発信し(または、発信する人ほ ど、充足感を持つ)、情報不足感がある人ほど情報発信したくてもできない(または、発信できない人ほど、不足感を 持つ)傾向がある。

なお、「特定の治療法の効果や副作用」については、それが実体験の内容であっても、情報発信者の半数しか語る ことがない。治療法の発信には、一般的な情報とは違う配慮をすべきとする人が6割など、慎重な姿勢がうかがえ る。

◎ 本調査で用いた「情報発信」の定義

「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を、【複数の人に向けて】、発信すること (例:セミナーなど人前で、何かの会員紙上で、ブログで、掲示板で)

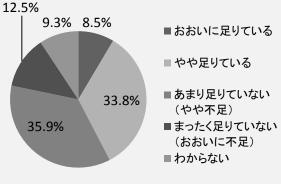
■主なポイント:

●情報不足感 (今回テーマ「情報発信」とは関連薄いが、第1回目から継続している基礎設問)

充足派が4割、不足派が5割と、情報不足感を訴える人の方が多い。

属性別では、「男性よりも女性の方が」、「年代が低いほど」、「本人よりも家族の方が」、情報不足と感じている。この 傾向は、過去3回の調査でも同じであった。

がん情報が充分にあるか



n=2754

属性別の情報充足度(スコア換算)

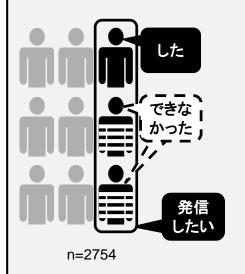


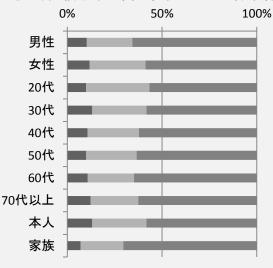
※「おおいに足りている」=+2、「やや足りている」=+1、「あまり足りて いない(やや不足)」=-1、「まったく足りていない(おおいに不足)」=-2の係数を掛けて、合計値をスコア化



●情報発信の実施状況

がん患者・家族の3人に1人が情報発信の意欲あるが、うち3分の1しか実際に発信したことはない。 男性より女性の方が、家族より本人の方が、発信意欲は高い。年代別では若年層の方が僅かに多い。





- ■情報発信したことが ある
- ■情報発信したいと 思ったことはある が、実際にしたこと はない
- ■情報発信したいと 思ったことはない

●情報発信行為の実態



理由

「他人・社会のため」が6割、「自分のため」は2割

方法

「ブログなどで」が7割

内容

「断片的」が6割、「情報を整理して」は2割

「特定の治療法の有効性・副作用」については、 「実体験ものを発信した」5割、「伝聞ものを発信した」は1割 (また、治療法発信者の2/3は「医療者ではない」と明記)

反響

「情報発信したら他人からリアクションあった」8割 →うち半数は「交流が続いた」 →うち2/3は「自分の情報もかえって充実」

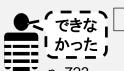
結果 「発信して良かった」が7割、「悪かった」はゼロ 良かった理由は「他人の役に立った」「同じ立場の人と交流できた」 がほとんど

自・他両方 に好影響

低質?

むしろ特徴?

比較的安全



理由

「方法・場所・きっかけない」4割など外的事由が多く、「知られたくない」1割など本人の内的事由は少ない

課題は改善 可能なもの

くつづく>



●情報発信する人の特徴(or 発信した人が得た効果)

情報発信度 ⇔ 情報不足感 は、【相関あり】

- ・情報<u>充</u>足感ある人ほど、発信する (or 発信する人ほど、充足感を持つ)
- ・情報<u>不</u>足感ある人ほど、発信したくてもできない (or 発信できない人ほど、不足感を持つ)
- ⇔ 将来に対する不安感 は、【やや相関あり】
 - ・不安感が大きい、or 逆に安心感が大きい人ほど、 発信する (中庸の人は発信しない)
 - ※「情報不足感」と「将来不安感」の間にも、相関がみられた (将来が不安な人ほど、不足感がある)
- ⇔ 周囲との人間関係の良好さ は、【相関なし】
 - ※「<u>情報不足感</u>」と「周囲との人間関係」とは若干の相関がみられた (人間関係が悪いほど、不足感がある)
- ⇔ 民間療法の実施状況 は、【あまり相関なし】
 - ※「<u>情報不足感</u>」と「民間療法の実施」との間には 関連性が見られなかった



【調査実施概要】

▼実施主体

設問・実査・集計=株式会社QLife(キューライフ) 監修=中山健夫・京都大学大学院教授

▼実施概要

(1) 調査名称: がん情報の入手・利用に関する実態調査

(2) 調査対象: がん調査の呼びかけに応えたQLife会員ならびにその他の一般生活者

(3) 有効回答数: 2,754人(がん患者・家族以外は集計対象外とした)

(4) 調査方法: インターネット調査

(告知方法は、QLifeメルマガによる会員への告知、QLifeのWEBサイトなどの上でのバナー広告などによる一般アクセス者への告知、ならびに協力調査会社会員への

告知など)

(5) 調査時期: 2013/7/15~2013/7/31

(6) 倫理遵守: 「がん」に関する調査であることを事前に提示し、その旨を確認した回答者にだけ

調査票を提示。また個人を識別可能な情報はメールアドレス以外には取得せず、 可能な限り匿名性を堅守。またメールアドレスが提供された場合にその管理は実施 主体者の個人情報取扱い規定に則り、回答者に事前提示した目的以外の目的には 使用していない。さらに、本レポート中にも特定の医療機関や医師を批判する回答は

掲載しない。

なお、京都大学医の倫理委員会の審査承認も得ている。(承認番号 E1253)

▼有効回答者の属性

(1)性•年代:

	男性	女性	計	年代	男性	女性	計
10代	0	0	0	10代	0.0%	0.0%	0.0%
20代	7	23	30	20代	0.4%	2.1%	1.1%
30代	79	141	220	30代	4.8%	12.6%	8.0%
40代	289	377	666	40代	17.6%	33.8%	24.2%
50代	447	387	834	50代	27.3%	34.7%	30.3%
60代	528	153	681	60代	32.2%	13.7%	24.7%
70代	282	34	316	70代	17.2%	3.0%	11.5%
80代以上	7	0	7	80代以上	0.4%	0.0%	0.3%
計	1639	1115	2754	計	100.0%	100.0%	100.0%

(2)地域(居住):

北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬
5. 6%	0. 5%	0.8%	1. 7%	0.6%	0.6%	0.8%	0.9%	1. 2%	1. 2%
埼玉	千葉	東京都	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野
5.3%	5. 6%	14. 9%	9. 9%	1. 5%	0. 7%	1. 1%	0.5%	0.8%	1. 3%
岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
1.5%	2.4%	6.1%	0.8%	1.0%	2. 4%	8. 0%	6. 2%	1. 3%	1.0%
鳥取	島根	岡山	広島	日口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡
0.4%	0.4%	1.3%	2. 3%	1. 1%	0.3%	0. 7%	1.0%	0. 5%	3. 0%
佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄			
0.3%	0.4%	0.8%	0. 4%	0. 3%	0. 5%	0. 2%			



(3)がん関与度(経験度)

※定義(調査票上での表示):

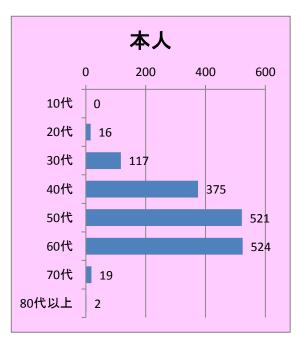
本人= 自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある

家族= 過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくは「いた経験」がある(ここでの家族の定

義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄弟姉妹」とします)

	全体	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
本人	1715	1077	638	0	8	80	319	518	527	259	4
家族	1039	562	477	0	22	140	347	316	154	57	3
合計	2754	1639	1115	0	30	220	666	834	681	316	7

	全体	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
本人	62.3%	65.7%	57.2%	0.0%	26.7%	36.4%	47.9%	62.1%	77.4%	82.0%	57.1%
家族	37.7%	34.3%	42.8%	0.0%	73.3%	63.6%	52.1%	37.9%	22.6%	18.0%	42.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



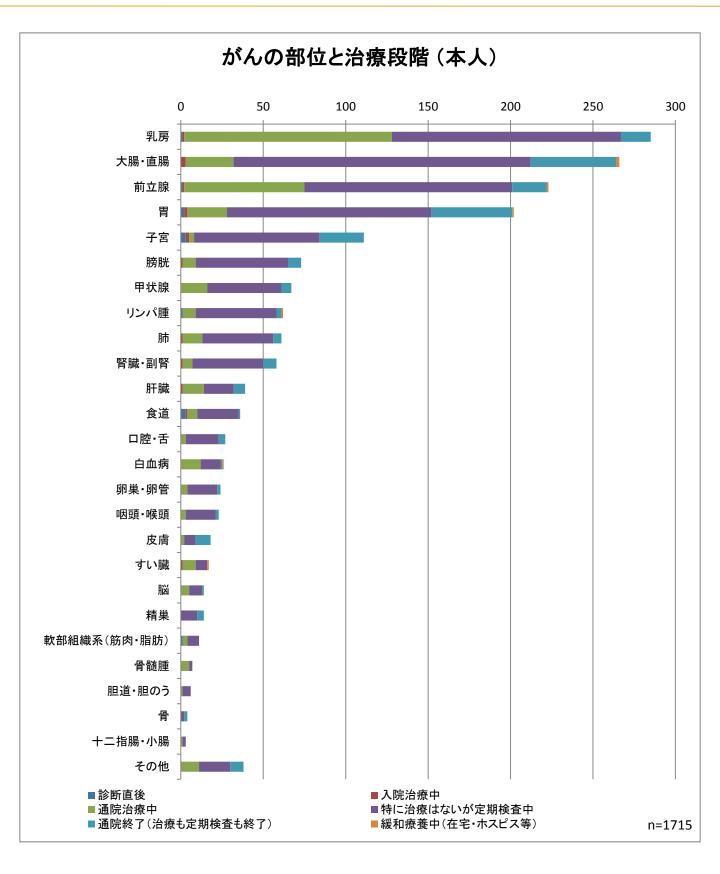




(4)がんの部位と治療段階

本人	診断直 後	入院治 療中	通院治療中	特に治 療はな いが定 期検査 中	通了療 (治定 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	緩和療 養中 (在宅・ ホスピ ス等)	n	診断直後	入院治 療中	通院治療中	特に治 療はな いが定 期検査 中	通了(原(治定 動し、 が表し、 が表し、 が表し、 が表し、 のである。 のでる。 ので。 のでる。 ので。 のでる。 のでる。 ので。 ので。 のでる。 のでる。 ので。 ので。 ので。 ので。 ので。 ので。 ので。 ので	緩和療 養中 (在宅・ ホスピ ス等)	%
乳房	1	1	126	139	18	0	285	8.3%	6.7%	33.0%	13.1%	7.6%	0.0%	16.6%
大腸·直腸	0	3	29	180	52	2	266	0.0%	20.0%	7.6%	17.0%	21.8%	28.6%	15.5%
前立腺	1	1	73	126	21	1	223	8.3%	6.7%	19.1%	11.9%	8.8%	14.3%	13.0%
胃	2	2	24	124	49	1	202	16.7%	13.3%	6.3%	11.7%	20.6%	14.3%	11.8%
子宮	3	2	3	76	27	0	111	25.0%	13.3%	0.8%	7.2%	11.3%	0.0%	6.5%
膀胱	0	1	8	56	8	0	73	0.0%	6.7%	2.1%	5.3%	3.4%	0.0%	4.3%
甲状腺	0	0	16	45	6	0	67	0.0%	0.0%	4.2%	4.2%	2.5%	0.0%	3.9%
リンパ腫	1	0	8	49	3	1	62	8.3%	0.0%	2.1%	4.6%	1.3%	14.3%	3.6%
肺	0	1	12	43	5	0	61	0.0%	6.7%	3.1%	4.1%	2.1%	0.0%	3.6%
腎臓•副腎	0	1	6	43	8	0	58	0.0%	6.7%	1.6%	4.1%	3.4%	0.0%	3.4%
肝臓	0	1	13	18	7	0	39	0.0%	6.7%	3.4%	1.7%	2.9%	0.0%	2.3%
食道	3	1	6	25	1	0	36	25.0%	6.7%	1.6%	2.4%	0.4%	0.0%	2.1%
口腔·舌	0	0	3	20	4	0	27	0.0%	0.0%	0.8%	1.9%	1.7%	0.0%	1.6%
白血病	0	0	12	12	1	1	26	0.0%	0.0%	3.1%	1.1%	0.4%	14.3%	1.5%
卵巣・卵管	0	0	4	18	2	0	24	0.0%	0.0%	1.0%	1.7%	0.8%	0.0%	1.4%
咽頭•喉頭	0	0	3	18	2	0	23	0.0%	0.0%	0.8%	1.7%	0.8%	0.0%	1.3%
皮膚	0	0	2	7	9	0	18	0.0%	0.0%	0.5%	0.7%	3.8%	0.0%	1.0%
すい臓	0	1	8	7	0	1	17	0.0%	6.7%	2.1%	0.7%	0.0%	14.3%	1.0%
脳	0	0	5	8	1	0	14	0.0%	0.0%	1.3%	0.8%	0.4%	0.0%	0.8%
精巣	0	0	0	10	4	0	14	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	1.7%	0.0%	0.8%
軟部組織系(筋 肉・脂肪)	1	0	3	7	0	0	11	8.3%	0.0%	0.8%	0.7%	0.0%	0.0%	0.6%
骨髄腫	0	0	5	2	0	0	7	0.0%	0.0%	1.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%
胆道・胆のう	0	0	1	5	0	0	6	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
骨	0	0	0	2	2	0	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.8%	0.0%	0.2%
十二指腸・小腸	0	0	1	2	0	0	3	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
その他	0	0	11	19	8	0	38	0.0%	0.0%	2.9%	1.8%	3.4%	0.0%	2.2%
計	12	15	382	1061	238	7	1715	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	0.7%	0.9%	22.3%	61.9%	13.9%	0.4%	100.0%							

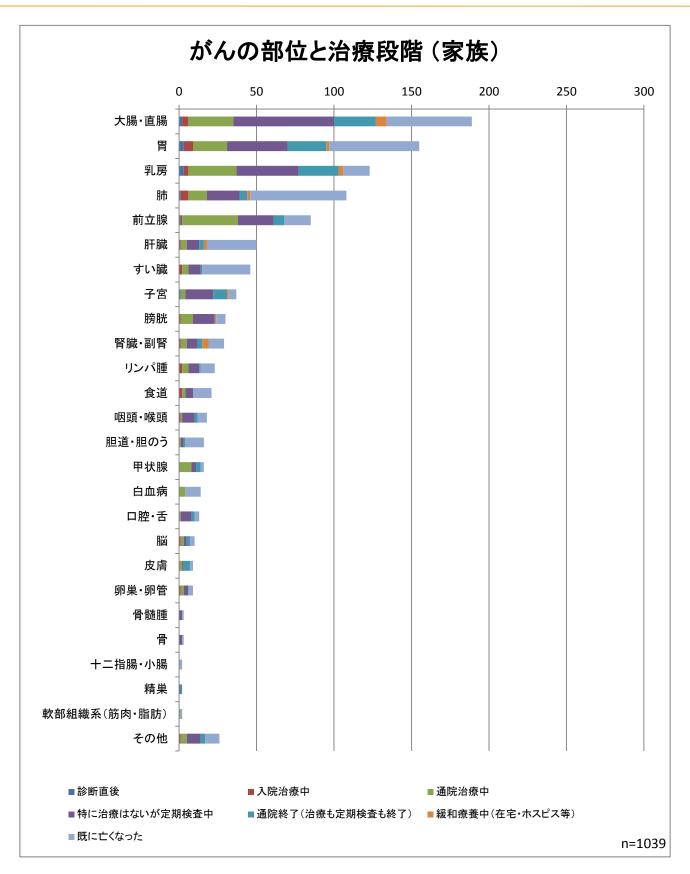






家族	診断直後	入院 治療 中	通院 治療 中	特治はい定検中に療なが期査中	通終治も期査終院了療定検も了)	緩療(在ホス ・ポス ・スピ	既に 亡く なった	n	診断直後	入院 治療 中	通院 治療 中	特治はい定検中に療なが期査	通終治も期査終院了療定検も了)	緩療(在ホス ・スピス)	既に 亡く なった	%
大腸·直腸	2	4	29	65	27	7	55	189	18.2%	12.5%	15.7%	22.0%	21.6%	31.8%	14.9%	18.2%
胃	3	6	22	39	25	2	58	155	27.3%	18.8%	11.9%	13.2%	20.0%	9.1%	15.7%	14.9%
乳房	3	3	31	40	26	3	17	123	27.3%	9.4%	16.8%	13.6%	20.8%	13.6%	4.6%	11.8%
肺	1	5	12	21	5	2	62	108	9.1%	15.6%	6.5%	7.1%	4.0%	9.1%	16.8%	10.4%
前立腺	1	1	36	23	7	0	17	85	9.1%	3.1%	19.5%	7.8%	5.6%	0.0%	4.6%	8.2%
肝臓	0	1	4	8	3	2	32	50	0.0%	3.1%	2.2%	2.7%	2.4%	9.1%	8.7%	4.8%
すい臓	0	2	4	8	1	0	31	46	0.0%	6.3%	2.2%	2.7%	0.8%	0.0%	8.4%	4.4%
子宮	1	0	3	18	9	1	5	37	9.1%	0.0%	1.6%	6.1%	7.2%	4.5%	1.4%	3.6%
膀胱	0	1	8	14	0	1	6	30	0.0%	3.1%	4.3%	4.7%	0.0%	4.5%	1.6%	2.9%
腎臓•副腎	0	1	4	7	3	4	10	29	0.0%	3.1%	2.2%	2.4%	2.4%	18.2%	2.7%	2.8%
リンパ腫	0	2	4	7	1	0	9	23	0.0%	6.3%	2.2%	2.4%	0.8%	0.0%	2.4%	2.2%
食道	0	2	2	5	0	0	12	21	0.0%	6.3%	1.1%	1.7%	0.0%	0.0%	3.3%	2.0%
咽頭•喉頭	0	1	1	8	2	0	6	18	0.0%	3.1%	0.5%	2.7%	1.6%	0.0%	1.6%	1.7%
胆道・胆のう	0	0	1	2	1	0	12	16	0.0%	0.0%	0.5%	0.7%	0.8%	0.0%	3.3%	1.5%
甲状腺	0	0	8	3	3	0	2	16	0.0%	0.0%	4.3%	1.0%	2.4%	0.0%	0.5%	1.5%
白血病	0	0	4	0	0	0	10	14	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	1.3%
口腔·舌	0	0	1	7	2	0	3	13	0.0%	0.0%	0.5%	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	1.3%
脳	0	1	2	2	2	0	3	10	0.0%	3.1%	1.1%	0.7%	1.6%	0.0%	0.8%	1.0%
皮膚	0	0	2	1	4	0	2	9	0.0%	0.0%	1.1%	0.3%	3.2%	0.0%	0.5%	0.9%
卵巣・卵管	0	1	2	3	0	0	3	9	0.0%	3.1%	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.9%
骨髄腫	0	0	0	2	0	0	1	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%
骨	0	0	0	2	0	0	1	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%
十二指腸・小腸	0	0	0	0	0	0	2	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.2%
精巣	0	0	0	1	1	0	0	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.2%
軟部組織系(筋 肉・脂肪)	0	0	1	0	0	0	1	2	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%
その他	0	1	4	9	3	0	9	26	0.0%	3.1%	2.2%	3.1%	2.4%	0.0%	2.4%	2.5%
計	11	32	185	295	125	22	369	1039	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	1.1%	3.1%	17.8%	28.4%	12.0%	2.1%	35.5%	100.0%								







【調査票】

■第1画面(但し書き)

■調査票の冒頭の但し書き:

本調査は、『国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環として行っております。ぜひご協力ください。

なお、回答者のうち抽選で50名様にAmazonRギフト券をお送りします。

調査票にはメールアドレスを入力する欄がありますが、使用目的は2重回答の防止と、調査結果や関連調査実施のご連絡、当選時のプレゼント送付のためです。個人情報取扱い規定はこちらをご覧ください。

Amazon®ギフト券をプレゼント!

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で【Amazon®ギフト券】をプレゼント!

『Amazon®ギフト券』500円分を50名様・プレゼントの当選は、当選された方へのメール通知をもって代えさせていただきます。・重複および、不正回答は抽選対象から除外させていただきます。

Amazonギフト券について

Amazon.co.jpは、キャンペーンのスポンサーではありません。

- •Amazonギフト券細則はhttp://amazon.co.jp/giftcard/tcをご確認ください。
- ・Amazon、Amazon.co.jp、Amazon.co.jpロゴおよびAmazonギフト券は、Amazon.com, Inc.およびその関連会社の商標です。

【個人情報およびアンケート回答情報の取り扱いについて】

ご記入いただいたすべての情報は、株式会社QLifeが責任を持って管理運営いたします。ご記入いただいたアンケートの回答情報は、個人を特定しない統計的な集計・分析のため、また、類似のアンケート調査の実施のために利用します。詳細については「個人情報の取り扱いについて」をご確認ください。個人情報の取り扱いについて、上記の内容にご同意の上、アンケートに進んでください。

■第2画面(設問群1)

No	設問文		選択肢							
最初に	最初に、あなた自身について教えてください。									
Q1	年代を教えてください。	択一	10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上							
Q2	性別を教えてください。	択一	男性女性							
Q3	お住まいの都道府県を教えてください。	択一	47都道府県							
Q4	メールアドレスを教えてください。 ※プレゼントに当選した場合の連絡先として使用しますので、正確に入力してください。	FA								
Q5	あなたの「がん」の経験について、当てはまるものを選んでください。 ※複数の選択肢が当てはまる場合は、より上にある 選択肢を選んでください。	択一	自身ががんの「患者」である、もしくは過去5年 以内に「がんと診断された経験」がある 過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、 もしくはいた経験がある(ここでの「家族」の定 義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄 弟姉妹」とします) その他							



■第2画面(設問群1) つづき

No	設問文		選択肢
Q6	くQ5で「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」と回答した場合>最初にがんと診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。 ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。	択一	脳咽肺食胃十大肝胆す腎膀皮口子卵乳前精甲白骨骨軟リぞ喉 1 二腸臓道い臓胱膚腔宮巣房立巣状血髄 部が 1 帰り
Q7	くQ5で「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、もしくはいた経験がある(ここでの「家族」の定義は、「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄弟姉妹」とします)」と回答した場合> 患者さん本人が、最初にがんと診断された時、何のがんと診断されましたか。当てはまるものを選んでください。 ※転移ではなく多重がんで年月を経てから新たな部位にがんが見つかった場合は、最初の部位ではなく最近の部位を選んでください。	択一	脳咽肺食胃十大肝胆す腎膀皮口子卵乳前精甲白骨骨軟いの味質 1 二腸臓道い臓胱膚腔宮巣房立巣状血髄 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1



■第2画面(設問群1) つづき

No	設問文		選択肢
Q8	<q5で「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」と回答した場合> 現在の治療状況として、一番近いものを教えてください。</q5で「自身ががんの「患者」である、もしくは「がんと診断された経験」がある」と回答した場合>	択一	診断直後 入院治療中 通院治療中 特に治療はないが定期検査中 通院終了(治療も定期検査も終了) 緩和療養中(在宅・ホスピス等)
Q9	< Q5で「過去5年以内に、家族に、「がん患者」がいる、 もしくはいた経験がある(ここでの「家族」の定義は、 「同居家族」もしくは「配偶者・親・子・兄弟姉妹」としま す)」と回答した場合> 患者さんの、現在の治療状況として、一番近いものを 教えてください。	択一	診断直後 入院治療中 通院治療中 特に治療はないが定期検査中 通院終了(治療も定期検査も終了) 緩和療養中(在宅・ホスピス等) 既に亡くなった

■第3画面(設問群2)

No	設問文		選択肢						
あなた	あなたが【現在】入手できる「がんに関する情報」について、教えてください。								
Q10	現在、あなたの周りに「がんに関する情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。 ※病気そのものについてだけではなく、関連する情報すべてを対象としてください。(検査、治療、予防、医療機関、医師、費用、経済支援、治験、家族協力、社会復帰、コミュニケーション、心理、統計など)	択一	おおいに足りている やや足りている あまり足りていない(やや不足) まったく足りていない(おおいに不足) わからない						



■第4画面(設問群3)

No	設問文		選択肢
がんに	- に関する、あなたの情報発信経験について、教えてくださ	ر٠ <u>°</u>	
Q11	これまでに、「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を【複数の人に向けて】、情報発信したことはありますか。 例:セミナーなど人前で、何かの会員紙上で、ブログで、掲示板で	択一	情報発信したことがある 情報発信したいと思ったことはあるが、実際 にしたことはない 情報発信したいと思ったことはない
Q12	<q11で「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」と回答した場合>前問で「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」とのことですが、発信の障害となったことは何ですか。 情報発信しなかった理由を具体的に教えてください。</q11で「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」と回答した場合>	FA	
Q13	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>前問で「情報発信したことがある」とのことですが、その方法を教えてください。当てはまるものを全て選んでください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	複数	本を発行して セミナーなど人前で話して 会員誌・広報誌などへの寄稿/インタビューで 自分のブログや、自分のSNSページ上で 掲示板や、他人のブログや、他人のSNSペー ジ上で その他(具体的に教えてください→ 「」)
Q14	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合> 情報発信した内容(スタイル)を教えてください。当て はまるものを全て選んでください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	複数	情報を整理・体系だてて 日記風に連続して 単発・断片的に
Q15	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合> 情報発信した目的・理由は何ですか。複数ある場合は、 より大きな理由から書いてください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	FA	
Q16	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>情報発信をして、読者(閲覧者、講演参加者)など他人から、何らかのリアクション(コメントや質問等)がありましたか。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	択一	リアクションがあり、一部の人とは交流(メールや直接会うなど)が続いた リアクションがあったが、交流(メールや直接会うなど)にはならなかった リアクションがなかった リアクションがなかった その他
Q17	<q16で「リアクションがあり、一部の人とは交流(メールや直接会うなど)が続いた」と回答した場合> 読者(閲覧者、講演参加者)などと交流したことで、ご自身のがんに関する情報は充実しましたか。</q16で「リアクションがあり、一部の人とは交流(メールや直接会うなど)が続いた」と回答した場合>	択一	おおいに充実した 充実した 変わらない
Q18	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>情報発信をして、良かったと思いますか。一番近いものを選んでください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	択一	とても良かった 良かった どちらでもない 悪かった とても悪かった
Q19	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>前問で、情報発信して"とても良かった/良かった/とても悪かった/悪かった"とのことですが、なぜそう思うか理由を具体的に教えてください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	FA	



■第5画面(設問群6)

No	設問文		選択肢
ここか	らは、がんの「治療法」「効果・副作用」の情報発信に限立	≧して、	教えてください。
Q20	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>あなたは、「がんの特定の治療法に関する有効性や副作用」の話を、情報発信したことがありますか。 ※医師による治療以外の対処法(例:ビタミンXXを多く摂る)も含めます。以降の設問でも同様です。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	複数	「自身や家族が実体験した治療法」の有効性 や副作用について、情報発信したことがある 「実体験していないが、見聞きした治療法」の 有効性や副作用について、情報発信したこと がある 治療法の有効性や副作用について情報発信 したことは、ない
Q21	< Q20で「実体験していないが、見聞きした治療法」の有効性や副作用について、情報発信したことがあると回答した人> 「実体験していないが、見聞きした治療法」の有効性や副作用を、情報発信した際に、その情報の「確からしさ」について別の情報源で確認しましたか。(例:別文献や別の専門家サイト)	択一	必ず確認した 確認することが多かった 確認しないことが多かった 全く確認しなかった 覚えていない
Q22	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>治療法や効果・副作用を情報発信した際に、「あなたが医療者でない」ことを明記/告知しましたか。 ※あなたが医療者の場合は、「私は医療者である」を 選んでください。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	択一	必ず明記/告知した 明記/告知することが多かった 明記/告知しないことが多かった 全く明記/告知はしなかった 覚えていない 私は医療者である
Q23	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>「がんの治療法」について情報発信する際には、他の種類の情報(例えば、グルメ情報)を発信する時とは、違う配慮をすべきだと思いますか。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	択一	全く違う配慮をすべき やや違う配慮をすべき 特に違う配慮をする必要はない わからない
Q24	<q23で「全く違う配慮をすべき」「やや違う配慮をすべき」と回答した場合> 前問で「違う配慮をすべき」とのことでしたが、具体的には、何をするべきだと思いますか。</q23で「全く違う配慮をすべき」「やや違う配慮をすべき」と回答した場合>	FA	
Q25	<q11で「情報発信したことがある」と回答した場合> 実際には、違う配慮をしていますか、していませんか。</q11で「情報発信したことがある」と回答した場合>	択一	全く違う配慮をしている やや違う配慮をしている 特に違う配慮はしていない わからない



■第6画面(設問群7)

No	設問文		選択肢						
現在の	現在のあなたご自身の状態について、教えてください。								
Q26	あなたの「将来への不安」の程度を教えてください。近いと思うものを選んでください。	択一	不安はとても小さい 不安は小さい どちらでもない 不安は大きい 不安はとても大きい わからない						
Q27	あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。近いと思うものを選んでください。	択一	関係はとても良好 関係は良好 どちらでもない 関係は不良 関係はとても不良 わからない						
Q28	現在、病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)をしていますか。	択一	行っている 少し行っている 行っていない わからない						

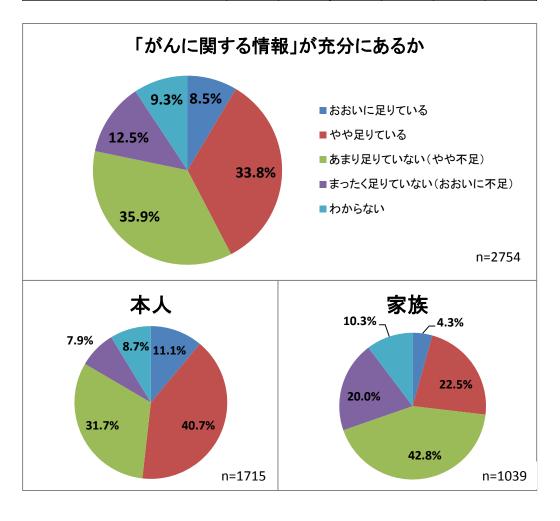


【調査結果の詳細】

1.現在、あなたの周りに「がんに関する情報」が充分にあると思いますか。一番近いものを選んでください。

過去行った3回の調査同様、患者本人と家族の間で「がんに関する情報」の充足/不足感に大きく差が現れた。また、2012年に行った調査と比べると、患者本人で「おおいに足りている/やや足りている」と回答したのは51.8%(2012年調査では48.5%)、家族で26.8%(同25%)とわずかに充足感が高い結果となった。

	本人	家族	n	本人	家族	%
おおいに足りている	190	45	235	11.1%	4.3%	8.5%
やや足りている	698	234	932	40.7%	22.5%	33.8%
あまり足りていない(やや不足)	543	445	988	31.7%	42.8%	35.9%
まったく足りていない(おおいに不足)	135	208	343	7.9%	20.0%	12.5%
わからない	149	107	256	8.7%	10.3%	9.3%
計	1715	1039	2754	100.0%	100.0%	100.0%





がん情報充足/不足感の属性別状況:

(グラフでは、セグメント別比較をしやすいように、「おおいに足りている」に+2、「やや足りている」に+1、「あまり足りていない(やや不足)」に-1、「まったく足りていない(おおいに不足)」に-2の係数を掛けて、合計値をスコア化した。)

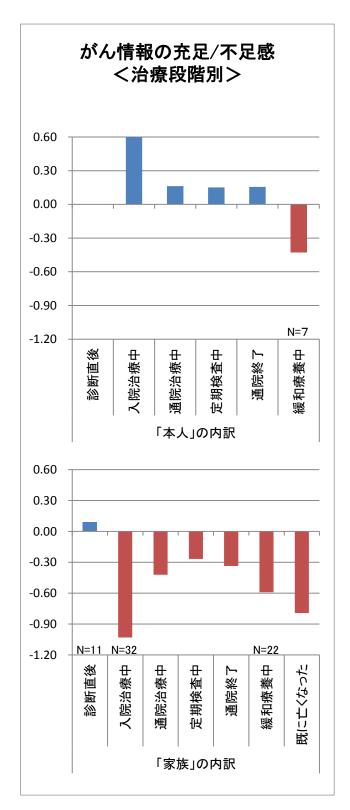
回答者の属性別に見たがん情報の充足/不足感では、「男性よりも女性の方が」、「年代が低いほど」、「本人よりも家族の方が」、「がん情報が不足している」と感じている。ちなみに過去3回の調査でも同じ傾向であった。

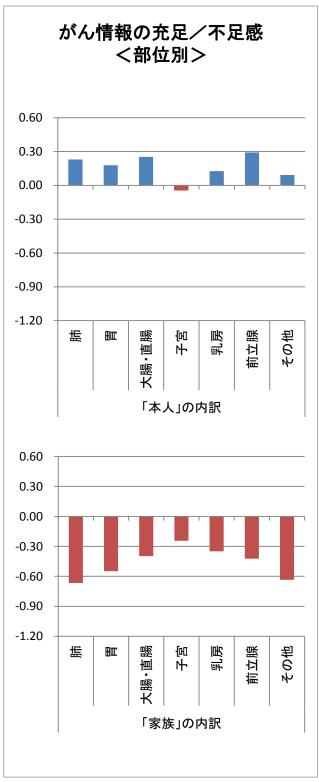


※「80代以上」は回収数が小さいため省略



「治療段階別」では、昨年の調査同様、患者、家族ともに「緩和療養中」に不足傾向が強い(ただし集計母数が小さい)。また、家族では、「入院治療中」患者の家族がもっとも不足感が大きかった。 「部位別」では、子宮がんが、患者・家族ともに情報の不足感が感じられがちだった。





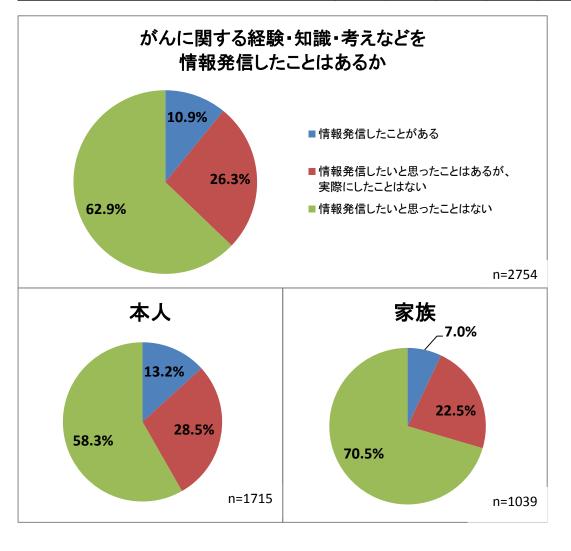


2.「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を、【複数の人に向けて】、情報発信したことはありますか。

(一人に対してではなく複数の人に向けて)情報発信したことがあるかを聞いたところ、36%、すなわち3人に1人はしようと思ったことがあるようだ。しかしながら実際に情報発信した人はその3分の1弱に留まり、「発信したいと思ったが、したことはない」人が多いことが分かった。属性別にみると「家族」よりも「本人」の方が発信意欲は旺盛で、特に「通院治療中」の患者では16%が情報発信者であった。

n=2754 (SA)

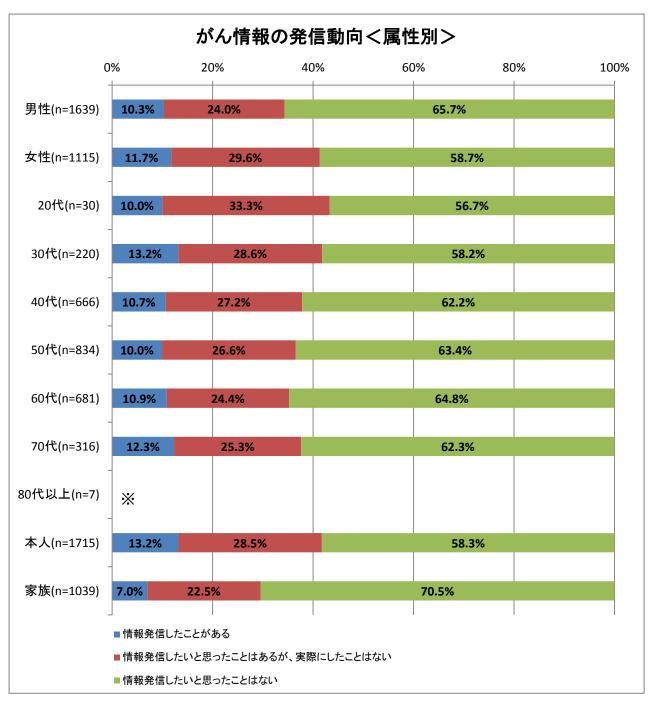
	本人	家族	n	本人	家族	%
情報発信したことがある	227	73	300	13.2%	7.0%	10.9%
情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない	489	234	723	28.5%	22.5%	26.3%
情報発信したいと思ったことはない	999	732	1731	58.3%	70.5%	62.9%
計	1715	1039	2754	100.0%	100.0%	100.0%





2.「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を、【複数の人に向けて】、情報発信したことはありますか。(つづき)

さらに、男女別では、「男性」より「女性」の方が、発信意欲が高い。年代別ではほとんど差がない。



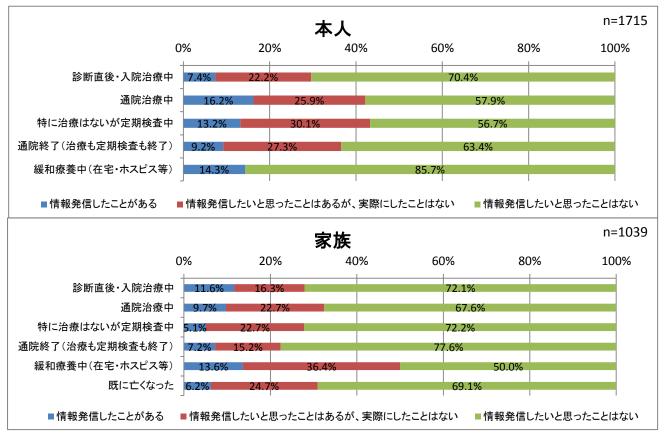
※「80代以上」は回収数が小さいため省略



2.「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を、【複数の人に向けて】、情報発信したことはありますか。(つづき)

		本人						家族					
	診断直 後·入 院治療 中	通院治療中	特療が検中	通院終 了(も 療検終 も終 了)	緩和療 養在スピ ・ホス等)	n	診断直 後·入 院治療 中	通院治療中	特にはないが検中	通院() 療 () 療 () 療 () の () () () () () () () () () ()	緩和療 養中 (在スピ ホス等)	既に亡 くなっ た	n
情報発信したことがある	2	62	140	22	1	227	5	18	15	9	3	23	73
情報発信したいと思ったことはあるが、 実際にしたことはない	6	99	319	65	0	489	7	42	67	19	8	91	234
情報発信したいと思ったことはない	19	221	602	151	6	999	31	125	213	97	11	255	732
計	27	382	1061	238	7	1715	43	185	295	125	22	369	1039

		本人					家族						
	診断直 後·入 院治療 中	通院治 療中	特療が検中	通院終 了(も を 期 も終 了)	緩 養中 (在スピンス等)	%	診断直 後・入 院治療 中	通院治 療中	特療が検中	通院終 了(も を 期 も終 了)	緩和療 養在スポース等 (在ス等)	既に亡 くなっ た	%
情報発信したことがある	7.4%	16.2%	13.2%	9.2%	14.3%	13.2%	11.6%	9.7%	5.1%	7.2%	13.6%	6.2%	7.0%
情報発信したいと思ったことはあるが、 実際にしたことはない	22.2%	25.9%	30.1%	27.3%	0.0%	28.5%	16.3%	22.7%	22.7%	15.2%	36.4%	24.7%	22.5%
情報発信したいと思ったことはない	70.4%	57.9%	56.7%	63.4%	85.7%	58.3%	72.1%	67.6%	72.2%	77.6%	50.0%	69.1%	70.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

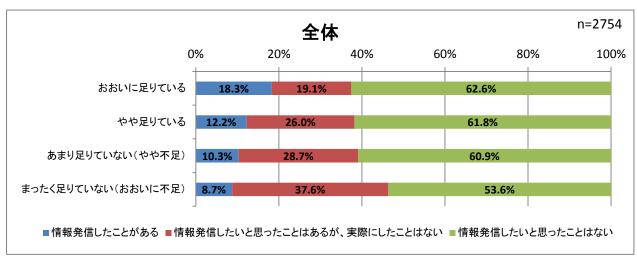


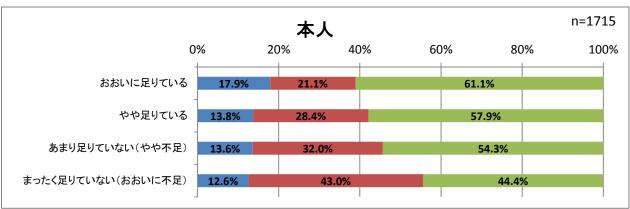


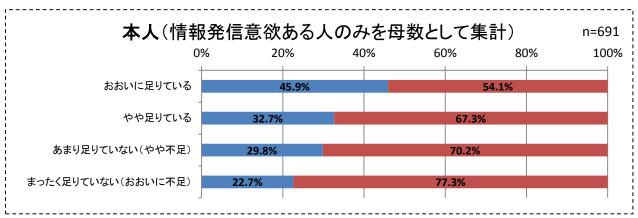
2.「がんに関するあなたの経験・知識・考えなど」を、【複数の人に向けて】、情報発信したことはありますか。(つづき)

そして、この「情報発信状況」は、前出の「情報不足感」と相関が見られる。すなわち、「情報発信したことがある人」は情報不足感と負の相関があり、逆に「情報発信したかったが、していない人」は情報不足感と正の相関がある。

「情報充足感が強い人ほど情報発信する(または情報発信するほど情報充足感が増す)」、および「情報不足感が強い人ほど情報発信を思いとどまる(または情報発信を思いとどまるほど情報不足感が増す)」ようだ。









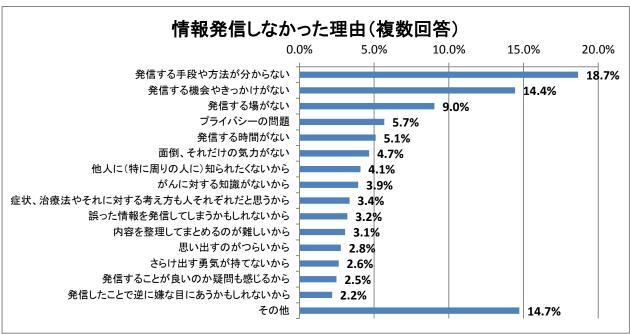
3.(「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」回答者のみ)情報発信しなかった理由を具体的に教えてください。

情報発信をしたくでもできなかった理由としては、「手段や方法」「機会やきっかけ」「場」がなかったから、とする人があわせて全体の4割に及んだ。それ以外では、「プライバシー」「他人に知られたくない」といった秘匿優先性、「知識がない」「誤った情報発信する危険」「整理が難しい」など能力不足、「気力がない」「思い出すのが辛い」など精神力不足を理由とした人が、それぞれ1割づつと、分散した。

ただし、回答文の字数が多い人(もし情報発信したら情報量が多いだろうと予想される)には、自身の発信都合よりも情報の受け手にとっての有効性や悪影響などを懸念して情報発信を止めた人が多いという傾向が見られる。

内容読み取り集計結果(MA)

	n	%
発信する手段や方法が分からない	128	18.7%
発信する機会やきっかけがない	99	14.4%
発信する場がない	62	9.0%
プライバシーの問題	39	5.7%
発信する時間がない	35	5.1%
面倒、それだけの気力がない	32	4.7%
他人に(特に周りの人に)知られたくないから	28	4.1%
がんに対する知識がないから	27	3.9%
症状、治療法やそれに対する考え方も人それぞれだと思うから	23	3.4%
誤った情報を発信してしまうかもしれないから	22	3.2%
内容を整理してまとめるのが難しいから	21	3.1%
思い出すのがつらいから	19	2.8%
さらけ出す勇気が持てないから	18	2.6%
発信することが良いのか疑問も感じるから	17	2.5%
発信したことで逆に嫌な目にあうかもしれないから	15	2.2%
その他	101	14.7%
計	686	100.0%





3.(「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」回答者のみ)情報発信しなかった理由を具体的に教えてください。(つづき)

「情報発信しなかった理由」とされたものから文字数が多い回答内容を以下に掲載する。

אדרווי	.J. 10 0 0 0 7	C-EMJCC1	のこののかり入り気が少く四日で日との「に同事がある。
本人	リンパ腫	男性 40代	一口に悪性リンパ腫といっても、私の場合は年単位で進行するもので、他のがんと比較しても治りやすく、現に私も28日間の放射線治療のみで根治した。 私は始め大学病院で検査し、2月かかってようやく病名が分かったうえ、進行度合いの検査を受けようにも検査日程がひと月先までいっぱいで、なおかつ医者は保身のため最悪なことしか言わず、不安ばかりが煽られた。 さすがに切れて紹介状を書かせたうえで県のがんセンターに移ったら、検査はサクサク進むし、先行き明るいことを言われ、生きる希望を持った。 大げさに取られるかもしれないが、大学病院の告知の時には妻と子供への今後の迷惑を考え、いっそひとおもいに・・・などとあらぬことも考えた。セカンドオピニオンはとてもいい制度なのでぜひとも利用したほうがいい。カースト制度の確立された大手大学病院の診断だけで、私と同じように精神的に参っている人たちに、希望の光は案外近くにあるかもしれないこと発信したい。情報発信しなかった理由は、ただそのすべを知らなかっただけ。
本人	口腔·舌	男性 60代	上顎扁平上皮癌、左右両頚部リンパ節転移性癌で、上顎の半分以上を切除し、両頚部リンパ節 全摘出、両肩の筋肉左頚静脈、耳下腺摘出、末期の進行性癌で4回の手術にて現在は5年1 0ヶ月しています。入れ顎にて食事、会話、仕事も何とかこなせるまでになりましたが時折他の患 者の皆さんにお話する程度です。積極的に情報発信しなかったのは、退院2年後家内が悪性リ ンパ腫にて入院治療を受けましたので、その後2年間は2人で一緒に病院通い現在も経過観察 に通っています。まったく考える時間が無かった為。
本人	脳	男性 40代	自分でネット等で探してやっと知った治療のみであって、自分のがんには完全な治療法などが全く無い状態であり、どこかの病院等で行っている治験等があり、簡単に知る機会があれば良いのだが知る機会があまりのも少ない。 やっと知った情報のみの発信で、他の人に役に立つかどうか不安でもあり、何としてでも治療法を知りたい立場にしてみれば、本当に役に立つ情報が欲しい気持ちでいっぱいの筈。
本人	食道	男性 50代	若気の至りで いい気になって 喫煙し放題、強い酒をあおっていると 私みたいに食道癌のリスクが非常に高くなって 実際に罹患して食道全摘手術を受けて 胃袋が無くなって その後の食生活が非常に不便になり、またビールも飲めないので 人生がおもしろくもなくなるということを伝えたいが どう情報発信をしていいのか その方策が分かりません
本人	乳房	女性 40代	不特定多数の人を対象に情報を発信する場合、自分が専門家であるため、一般の人と感覚が違ったり、持っている情報の受け取り方が違う可能性があるので、もしかしたら他の人にとってあまり良くないこともある可能性があるかもしれないと思ったので。 不特定多数の人を対象に、情報を顔を見ずに行うことは危険だと思ったので。
本人	大腸·直腸	男性 50代	特に障害となったことはありません。 ただ、個々の生活環境や経済状況等々の諸条件が異なるなかで、自分自身の体験的情報がは たして有効なのかどうかの判断ができなかったっことや、自分よりも辛い状況で懸命に生活をし ている方々と比較したときにそれほど有効な情報を発信できると思えなかったことです。
本人	前立腺	男性 50代	それぞれに関心のある方たちに対して、自分自身の経験が役にたつのか、自己満足に過ぎないのではないか、と感じたことと、摘出手術を受けて6カ月経過したばかりであり、5年ほど経過して再発が無いと納得するまでは、でしゃばりではないかとも感じたため。
本人	大腸・直腸	男性 60代	ここの状態は様々で ドクターからの話は 手術は成功したで おもうような情報は得られず 私 的なことでは 例えば術後の便の出方は術前と違うが結合の方法で変わる・・・発信には情報が乏しいので・・・
家族	肺	女性 50代	症状は人それそれだし、最近は治療法も多岐に亘っているので、どれが最善の方法かわからないまま情報を発信することは無責任のようにも思えた。誤った情報も多く、自分の情報が正しいものか自信もない。
本人	大腸·直腸	男性 40代	全大腸内視鏡検査で2センチ大のポリープが見つかり、切除したあとの生検で悪性だとわかった。 検査のときに切除でき、負担が少ないことや検診の有効性を訴えたいが、面倒なので行動はとら なかった。
家族	肺	女性 30代	子宮がん予防ワクチンを早く承認して欲しいと書きたかったけど、安全性や有効性が解らなかったのでインターネットなどの全世界の人が見られるものでの情報発信をする責任は負えないと思ったから。
家族	乳房	女性 40代	母が自分ががんであるということを人に知られるのが嫌だから言わないで、と言われたからです。 どうして知れれたくないのか、までは踏み込んで聞けていません。それだけ辛いのでしょう。
家族	リンパ腫	女性 30代	父のガンで実際に体験したことを伝えたいとも思ったけれど、感じたことなど正確に伝える、受け取ってもらえる自信がなかったので発信しなかった。誤解されるのだけは避けたかったので。



3.(「情報発信したいと思ったことはあるが、実際にしたことはない」回答者のみ)情報発信しなかった理由を具体的に教えてください。(つづき)

「情報発信しなかった理由」とされたものから文字数が多い回答内容を以下に掲載する。

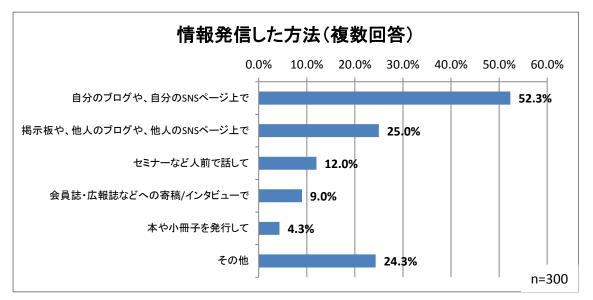
家族	胃	女性 30代	伝えたいと思うことはあったけど具体的に伝える手段もよくわからないし、ブログとかも 病気ブログでもないし書くと見てくれてる人も暗い気持ちになるかな~とか考えて何も しなかった。
本人	大腸·直腸	女性 40代	まだ完治とはいえない状態であること、病名を明らかにすることで周りから受けるであろう同情などがうっとおしいだろうと想像できること、などから時期尚早であると感じているから。
本人	子宮	女性 40代	個人名。自分の経験をこれから治療を控えている患者さんに伝えたいが、その術を知らない。誰が必要としているか不明だし、患者サポート会のような会の存在自体もわからなかった。
家族	大腸·直腸	男性 50代	年配者のがん手術の良否。父が、大腸がん・肺がんの手術をしたが、転移等がないにもかかわらず、手術後1年で肺機能の低下により他界したため。 情報発信の場がないため。
本人	前立腺	男性 60代	癌の友の会を病院内に作った。過去の人たちが30人集まって活動を開始している。入院と手術後の患者に経験を説明をしようという企画を作って準備中で、まだ実現してない。
本人	乳房	女性 60代	きっかけが無い。ネットなどで書き込むにしても、そういった場に詳しくないのでわからないことも多い。 やるのなら家族などには秘密で行いたいので、聞くのも迷う。
本人	乳房	女性 50代	病気を不特定多数の人に言う事で 仕事や生活に支障が出ることが怖いし 周りの偏見も気になるので 個人的に 病気になった人などに経験した話をする程度にしている
本人	乳房	女性 60代	身近な人々、地域の方々は癌だったとは知っていても、それ以外の人に知って欲しいとは思わなかったから。 自分から進んで「私は癌でした」と言いたくなかったから。
本人	大腸・直腸	男性 40代	そもそも、がん患者であることを公開したくないのだが、人の役に立つのならばその経験からのアドバイスをしたいと思っている。しかしながら、適切な場がなかった。
本人	大腸・直腸	男性 70代	大腸は初期で完治しています、がその後胃がんが見つかり三分の一しか残ってません、同じ経験者に聞きたいと思ってますが、その様なサイトが見つからないから。
家族	肺	男性 40代	無駄な延命治療を行うべきではないという考えを持っていますが、実際に一生懸命看病している方がいる人もも存じ上げているので、なかなか発信できません。
本人	口腔・舌	男性 60代	癌宣告をされた時の心の対処方。舌癌手術後の痛みの強さ(特に食事中)定期健診の重要さ。誰でも癌になる可能性。日頃の生活態度(飲酒、食事内容、喫煙)
本人	乳房	女性 50代	友人、知り合いなどには、自分のことを話したが、公までには知らせるきはなかった。 インターネットでもしらべることができるので。実際自分もそうでした。
本人	乳房	女性 50代	既往歴があると、仕事関係に支障をきたす恐れが有りまたつまらない噂になるの事が 有るため。心無い方が中には居るのが現実で、精神的に傷つきたくない。
家族	肺	女性 50代	ブログなど手段は色々あるがそこまでしようとは思わないが、自宅で看取ったことは家 族や患者にとってよかったと思っている経験を、伝えたいとは思う。
本人	大腸・直腸	男性 70代	癌を患った、患っている方達と直接私が癌患い少しでも生活満足度向上する為工夫した事工夫している事の情報を発信したいがそう言った会合、機関が無い
本人	前立腺	男性 60代	友人などに自分の経験談を話すのは構わないし、実際に面談の際とかメールなどで 知らせているが、不特定多数の方に情報提供する必要はないと思うから。
本人	卵巣・卵管	女性 60代	健康だと思ってる人は なかなか耳をかたむけない傾向もありますし 役立つ情報というより常識的なことしか 発信できそうにないと思いましたので。
本人	大腸·直腸	男性 50代	田舎に住んでおりセミナー等に参加する機会がない。 ネット上でも個人のブログは見かけるが、オープンに情報を発信できるサイトが見つからない。
本人	肝臓	男性 60代	ウィルスも消失し再発の危険も現題階では回復した原因を発信しようとしたが、自分のケースは例外的なので一般的な例にはならないと思ったから。



4.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した方法を教えてください。(複数回答)

情報発信の具体的方法は、「ブログやSNSページ上」が5割を超えた。一方、「セミナーなど人前で話した」も1割と少なくない。

n=300		(MA)
	n	%
自分のブログや、自分のSNSページ上で	157	52.3%
掲示板や、他人のブログや、他人のSNSページ上で	75	25.0%
セミナーなど人前で話して	36	12.0%
会員誌・広報誌などへの寄稿/インタビューで	27	9.0%
本や小冊子を発行して	13	4.3%
その他	73	24.3%
小計	381	127.0%
計	300	

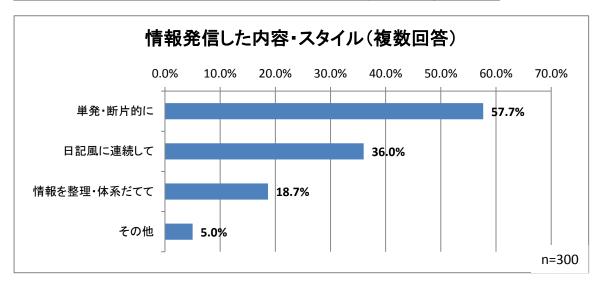




5.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した内容・スタイルを教えてください。(複数回答)

情報発信時の具体的なアウトプット内容・スタイルを聞くと、「情報を整理・体系だてて」は2割に満たない。「日記風に」も4割弱いるが、多くが「単発・断片的」な情報発信にとどまっている。

n=300		(MA)
	n	%
単発・断片的に	173	57.7%
日記風に連続して	108	36.0%
情報を整理・体系だてて	56	18.7%
その他	15	5.0%
小計	352	117.3%
計	300	



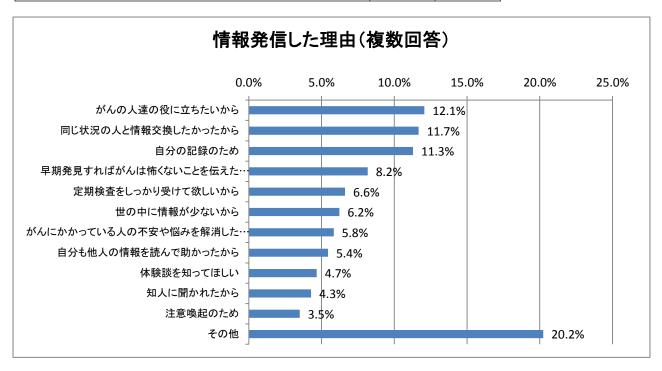


6.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した目的・理由は何ですか。

情報発信した理由として、「同じ境遇の人と情報交換したいから」「自分の記録のため」といった自分自身を向いた理由は2割に過ぎず、むしろ他人のために発信する人の方が多い。具体的には、「がん患者や家族」にむけて不安・悩み・情報不足の解消に貢献しようとしたり、あるいは「がんにかかってない人達」に対して検診を促したいという動機が多くを占めた。

内容読み取り集計結果(MA)

	n	%	
がんの人達の役に立ちたいから	31	12.1%	
同じ状況の人と情報交換したかったから	30	11.7%	00.00/
自分の記録のため	29	11.3%	20.0%
早期発見すればがんは怖くないことを伝えたかったから	21	8.2%	ļ - /
定期検査をしっかり受けて欲しいから	17	6.6%	
世の中に情報が少ないから	16	6.2%	
がんにかかっている人の不安や悩みを解消したいから	15	5.8%	
自分も他人の情報を読んで助かったから	14	5.4%	
体験談を知ってほしい	12	4.7%	
知人に聞かれたから	11	4.3%	
注意喚起のため	9	3.5%	
その他	52	20.2%	
<u></u>	257	100.0%	





6.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した目的・理由は何ですか。(つづき)

「情報発信した理由」とされたものから文字数が多い回答内容を以下に掲載する。

本人	前立腺	男性 60代	一つ目。癌だからと言って何も恐れることはない。絶望することはないという安心感をもって前向きに生活して欲しい。二つ目。進行性のものとそのままで足踏みをするものがあり、むやみやたらと切除を焦ることはないと知ってもらいたい。抗がん剤は副作用の方が危険性をはらんでおり、医師の言うがままに従わない方がよい。三つ目。癌を気に病むことなく、ストレスを避け、笑って生きることが何よりもの治療になることを知ってもらいたい。などの理由から。
家族	胃	女性 50代	多くの人に癌予防のための検査を毎年受けて欲しいということ。私の場合は毎年胃カメラをやっていたにもかかわらず、癌の初期ということで胃の3分の2を切除しました。癌にも色んな型があってそれによって処置も違うし手術の方法も変わってくるということ。腹腔鏡手術と開腹手術の違いや腹腔鏡手術の場合の執刀医の選び方。抗がん剤 TS1を一年間服用し、その副作用についてなどなどです。
本人	乳房	女性 50代	長年かかっていた日本の病院で発見されず、イタリアで乳癌を発見してもらい、幸いにして乳癌 治療最前線であるイタリアで治療を受けられ、イタリアと日本との病院のシステムや、医師の知 識・技術の差を身をもって感じられたので、乳癌治療や情報など日本の遅れている部分を知って もらい、よりよい治療や述語のケアなどはもとより、検査の大切さを訴えたかったから
本人	卵巣・卵管	女性 40代	自分も手術や抗がん剤の化学療法を受けるときに、日記風に、「こういうことがあった」そのときの気持ち、手術費用、薬の種類など、病院や研究所のHPではわからない、気持ちの面などをブログからたくさん情報を得たので、自分もそのときの気持ちを発信したかったからです。公的な病院記事などだと「気持ち」や費用負担まではわからないです
本人	前立腺	男性 60代	前立腺癌はPSA検査により疑いの段階からの早期発見が可能だ。自分もPSAのサーベイランスを受け、精密検査の結果低分化癌細胞を確認し前立腺を全摘した。職場での前立腺癌研修の受講者が少ないことから経験談を記事にし、早期発見のメリットを明らかにした。研修受講者から検査を経て数人の早期発見者が出たと聞いている。
家族	腎臓・副腎	男性 60代	癌には新しい治療方や効果が確かでは無い民間療法等情報が錯綜しています。 そのなかで、笑い等で心をリラックスさせて自己免疫力を高めて癌を退治するイメージ療法を紹介しています。イメージ療法は一人でいつでも出来ますし、安全でお金も必要ありません。効果も十分期待がもてます。
家族	その他	男性 50代	いかにインチキ情報、癌患者の藁をもすがる気持ちに付け込んだ、霊感商法紛いのサプリ等が多いか! それらを見極める目を持ち正しい治療、医師を見つけられるように。 こちらからの情報だけでなく、お互いに良い情報を交換し合う。幸い、アメリカに後輩がいるため最新の情報を得られる。
本人	乳房	女性 40代	ガンになる前から日常生活をずっとブログに綴っていたので、ガン発覚のことも日記として発信した。また、闘病生活を発信することによって同じ経験をされている方々の参考になればと思って今も続けている。私自身、他の乳癌患者さんのブログを読んでとても参考になるし励みになる。
本人	乳房	女性 50代	主に発信する相手は、がんと告知されて間もない、またはこれから治療に臨む患者です。 少しでも不安を取り除き、前向きに治療に取り組めるように、また治療中は少しでも快適に安心して過ごせるように、自分の経験を話し、または書いています。
家族	腎臓•副腎	女性 50代	腎臓がん患者は他のがん患者に比べて数が少なく、情報が不足していたところ、闘病記を書き 掲示板を作っている患者さんがいたので、そこに家族の経験を出して、いろいろな種類の患者さんがいることを知ってもらいたかったから。
本人	乳房	女性 60代	友人に対して・・がん治療のためにしばらくは交友関係が途絶えるかもしれないというお知らせ。 同じ境遇の人他を対象としたピアカウンセリングの開催 セミナー・・ガンを主体的にとらえることの必要性を知ってもらうため
本人	乳房	女性 50代	自分が癌になった時に間違った知識で通院が遅れて癌が大きくなっていたから、正しい知識を知ってほしかった。また、ドクターとの関わりにも苦労したので、同じ悩みの方の力に少しでもなれたらいいな、と思ったから。
本人	胃	男性 70代	友人知人から ・初期自覚症状と癌を見つけるまでのプロセス ・癌手術の事 ・入院期間中の事 ・転移の確認 ・ピロリ菌の事 ・その他アクシデント ・退院後の過ごし方 などを質問されたので
家族	肺	男性 50代	亡くなったのは父親ですが、末期がんとわかってから(本人は知りません)直接「ありがとう」と感謝の言葉を言えなくなったので、ブログの読者の方達に元気なうちに親には感謝の言葉を伝えようと書きました。
本人	胃	男性 70代	胃がんが発見されたときの状態、手術の状況、入院中の状況、退院してからの食事の状況等、なかなか、なった人でしかわからないことが多いので、皆さんに理解してもらうため、積極的に発信している。
本人	前立腺	男性 60代	他人の体験ブログなどを読み、自分自身が精神的に助けられたので、同じような状況の人に参考にしてもらえればと思い掲載した。またそのことによって自身も病気と闘う意欲を得ることができた。
本人	前立腺	男性 70代	前立腺ガンの手術・治療については、近所・知人には隠すことなく公表していた。 ガンといっても、早期発見・治療すれば転移も無く、手術で切除すれば何の問題も無いことを知っ てほしかった。



6.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した目的・理由は何ですか。(つづき)

本人	肺	男性 20代	若年層でのがんに対するケアやフォローが足りてない現状を憂いて 事実上がんである実体験を情報として掲載することで、 がんに対する誤った認識や予防を呼びかけられると、信じているから
本人	胃	女性 40代	スキルス胃癌だったので、生存がどこまで可能なのかを記録して行きたかった。私の場合、腫瘍マーカーの異常が出ないタイプなので、情報発信が役立つかもしれないと思ったので。
本人	大腸·直腸	男性 60代	知人、後輩に検査の重要性を伝えるため。実際、5人以上が検査を受け、何らかの処置を受けた。会社の健保でがん検診の補助を行っていることを伝えて、利用することを促すため。
家族	胆道・胆のう	男性 60代	胆嚢に出来たポリープを切除したところその中にがん細胞が存在したまれな例とのこと。よって 胆嚢に限らず胃・腸でも早めに治療をした方がよいと他の人にも勧めたかったため。
本人	前立腺	男性 70代	担当医からの希望(アンケートに2回ほど協力してほしいとの)で記入、送付した。当方の要望 (術後の経過で気になる症状等)にも回答があるのではないか?という理由。
本人	子宮	女性 30代	自分が、告知された時に、ネットでいろいろ情報収集して、とても参考になったので、 私と同じように、不安になって調べている人のためになれば、と思ったから。
本人	胃	女性 60代	無事に手術が終わったけれど もしかして再発などあった時の自分の記録として 他の胃がん患者の人にもどんな様子か教えてあげたかったから
本人	腎臓•副腎	男性 60代	会社OB会会報誌で、人間ドックの追加検査で見つかったこと、早期発見にはドックや健康診断を定期的に受診することが欠かせないと訴えた。
本人	その他	女性 50代	私が体験した事を通して、現在の検査や通院病院の感じや自分で体験した事を伝え、健康診断や健康でいられる大切さを知人に伝えたい
本人	胃	男性 60代	自分がガンを知らされた時の経緯から検査の大変さ、そして入院、手術、その後と経験した事を 自分の日記にした物を書きました。
本人	胃	女性 40代	個人の記録。 なのでコメントは受け付けていないが、もしかして読んでくれている人の役に立つかもとも思って 書いている。
家族	前立腺	女性 50代	友人が同じ年頃で、一緒の専門学校に入った人が癌で入院した為。 近い年齢の人が癌になった事で、健康管理の話がでて。
本人	子宮	女性 50代	日本でも治療方法に多様性があることがわかったので、それを多くの人に知ってもらったほうが ためになると思ったため。」
本人	甲状腺	女性 50代	母のがん闘病生活から感じたことや、体験してことなど、同じ苦しみを感じていらっしゃる方への 参考にしてもらいたくて
本人	乳房	女性 50代	ブログは自分の病気の備忘録。ネットの情報をシェア。患者会で頼まれて、体験談を会報に掲載したり例会で話したり。
本人	乳房	女性 40代	自分の記録を残すため 同じような症状で悩んでいる人への情報発信 がんを知らない・理解していない人への情報発信
家族	食道	女性 40代	自分自身が脳腫瘍になった時、似たパターンの方の記録が治療やリハビリ、その後の生活など大いに参考になったから
本人	大腸•直腸	男性 60代	医師からのアドバイスのおかげで早期発見でき、命拾いしたことから、検診の大切さを周りの人 に伝えたかったから。
本人	胃	男性 50代	自分ががんになった時にいろんなブログで情報を収集したことを思うと、自分の記録も何らかの 役に立つかなと思い。
本人	子宮	女性 50代	自分が罹患したがんの情報は少ないため。自分も知らなかった。 がんで仕事をやめたので時間に余裕ができた。
本人	乳房	女性 50代	ブログを通して、同じ病気の経験者の経験談を参考にするため。 自分の経験を話すことで、精神的な安定を図る
本人	リンパ腫	女性 60代	自分でも発病に驚いたので、治療の記録を残す意味もあり、かつほかの人に私の経験を役立て てもらいたいから。
本人	大腸・直腸	男性 60代	定期健診(会社で行う定期健診ではなく自主で)により早期発見が最大の予防であることが身にしみて感じたから
本人	腎臓・副腎	男性 40代	がんは早期発見でなんとかなることを知ってもらうためと、乳がん手術を受けたブロ友さんとの情報交換のため。
本人	大腸·直腸	男性 60代	1 早期発見の重要性 2 西洋医学以外の癌予防対策について 3 セカンドオピニオンについて 4 その他

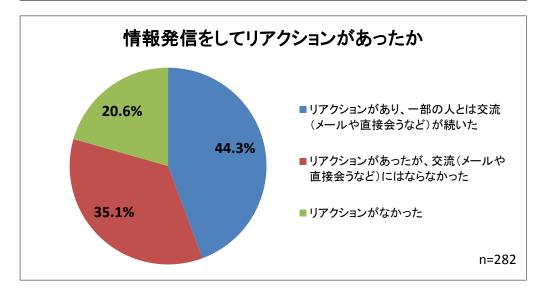


7.(「情報発信した」回答者のみ)情報発信した結果、読者(閲覧者・講演参加者)など他人から何らかのリアクション(コメントや質問など)がありましたか。

情報発信した人のうち8割は、その情報の受信者側から何らかのリアクションを得た。しかも、うち半数以上はリアクション者とその後も一定の「交流が続いた」とした。発信方法として多く使われているブログ(前出の「4.」参照)が、「読者コメントが一切入らない設定」で行われることが珍しくないことを考慮すると、かなり高い反響率と言えるだろう。

また「交流が続いた」ということは、情報発信側がリアクションに対して再返信をしたことを意味し、すなわちリアクションの内容が(「いいね!」ボタン等のレベルだけでなく)そうした再返信を呼ぶ品質、共感性を持っていたことを意味する。

_n=282		(SA)
	n	%
リアクションがあり、一部の人とは交流(メールや直接会うなど)が続いた	125	44.3%
リアクションがあったが、交流(メールや直接会うなど)にはならなかった	99	35.1%
リアクションがなかった	58	20.6%
計	282	100.0%

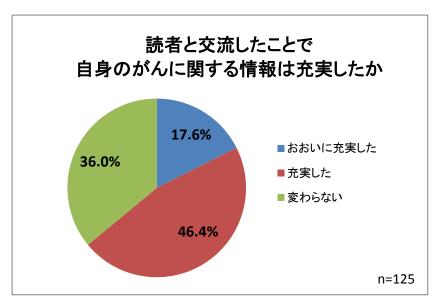




8.(「リアクション者と一定の交流が続いた」回答者のみ)読者(閲覧者・講演参加者)などと交流したことで、自身のがんに関する情報は充実しましたか。

リアクション者と交流した情報発信者3人のうち2人が、交流したことで「自身のがん情報が充実した」と回答した。 「情報発信は人のためならず」と言えるだろう。

n=125		(SA)
	n	%
おおいに充実した	22	17.6%
充実した	58	46.4%
変わらない	45	36.0%
計	125	100.0%

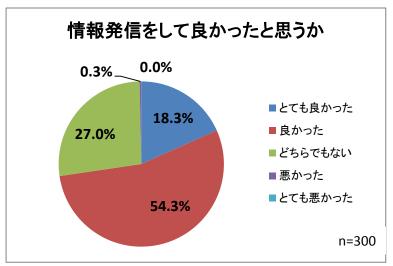


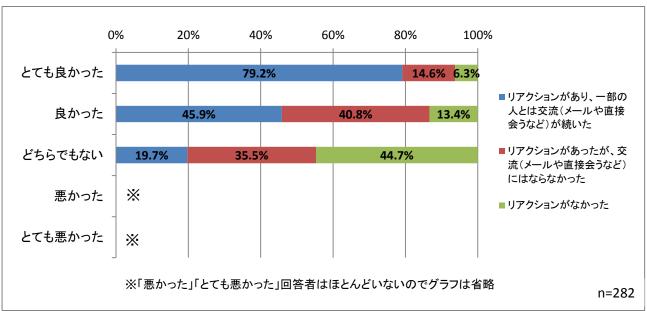


9.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)情報発信をして良かったと思いますか。

情報発信した人のうち7割が「情報発信して良かった」と回答し、逆に「悪かった」とした人はほとんどゼロであった。 特にこれは、リアクションの有無で傾向が顕著であり、「交流が続いた」「交流はないがリアクションはあった」「リアクションなかった」の順で、情報発信したことに関する満足度が高い。

_n=300		(SA)
	n	%
とても良かった	55	18.3%
良かった	163	54.3%
どちらでもない	81	27.0%
悪かった	1	0.3%
とても悪かった	0	0.0%
計	300	100.0%







10.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)前問のように考える理由を教えてください。

情報発信して「とても良かった」「良かった」「どちらでもない」それぞれの理由を聞いたところ、やはりリアクションが得られたか否かが大きいようだ。特に「良かった」理由として、「自分と同じ立場の人と交流できた」ことと「人の役に立った実感」を挙げる人が大半で、反響の質や数量を語る回答が多い。また「どちらでもない」に含まれるネガティブ理由に「特に反響がなかったから」が多く含まれた。

すなわち、「人の役に立った」と実感できたか否かが、満足・不満足感に直結する人が非常に多いことがわかった。また発信したことで「自分の考えや気持ちが整理できた」という人も少なくなかった。

■情報発信して「とても良かった」

本人	乳房	女性 50代	自分自身、当時4歳の娘を抱えての癌宣告であり、女性の大切な乳房を失うといういわばショック状態にあり、それがブログを毎日更新したり、多くの人と交流を持ったり、乳癌情報の発信で誰かの役に少しでも立てた充実感で、そのつらい時期を乗り越えられたと思うから
本人	卵巣・卵管	女性 40代	癌でも部位により症状や薬も多少違うので、やはり同じ種類の癌仲間と交流できるメリットがありました。卵巣、子宮摘出にともなう不調やリンパ浮腫などは、やはり経験者でないとわかりあえない部分が多いと思います。精神衛生上よかったです。
家族	腎臓•副腎	男性 60代	患者さんだけでなく、ご家族や医療従事者の方々からも好評でした。 病は気からと言いますが、心身をリラックスさせればNK細胞を活性化することが医学的にも立 証されています。
本人	その他	男性 50代	珍しい部位であったが、同じ部位の人と出会えた。今に至るまで交流している仲間に出会えた。 情報発信したことを切っ掛けに、新しいことに色々チャレンジできた。
本人	子宮	女性 50代	従来の対面などの方法では、情報の拡散に限りがあるが、インターネット上ではより多くの人に 知ってもらえる。意外に知られていないので、役に立ててよかった。
本人	その他	女性 50代	心配をさせたくないと隠す事より、オープンにして話すことで相手にも健康に気をつけて欲しいの と自分自身の気持ちがとても楽になりました
本人	乳房	女性 50代	大きな不安や疑問を抱えた患者さんが、私が発信した情報によって、表情が明るくなり気持ちが 前向きなっていくのを、数多く経験しました。
本人	乳房	女性 40代	同じ病気で、悩んだり、苦しんだりしている人が、いると自分だけじゃないと生きる勇気になった。 特に異性には理解してもらえないから。
本人	乳房	女性 60代	癌を発病した人が、私のアドバイスで病院を選び、手術も受け、とても元気にしている。がん友も 出来て楽しそうにしていて良かった。
本人	乳房	乳房 女性 40代 具体的に人の役に立った。特に元気をもらったパワーを貰ったと書いてもらえると嬉しい。 ま 健常者が癌検診に行ってくれた	
本人	胃	男性 60代	がんを受け入れて前向きに生活することにより、がんは克服できる病気であることを自分にも他 人にも伝えることができた。
本人	甲状腺	女性 40代	後日読んでいた人が子宮体がんの宣告を受けるのに、自分が宣告を受けた時の状況や心構え を参考にしてくれたから
家族	その他	男性 50代	少しでも正しい情報を得て治療に当たり良い効果が得られたから。抗がん剤と正しいサプリ(副作用の軽減等)
本人	乳房	女性 50代	十分な情報が得られ、納得して治療を受けることができた。同じ病気の人と励まし合うことができた。
本人	前立腺	男性 60代	己自身に該当する事案は関心も高く、電話で頻繁に問い合わせがあり、具体的なアドバイスが 出来た。
家族	大腸•直腸	女性 30代	誰でも無料でインターネットで閲覧できるので、医療関係者以外の人からも読んだと言われたから。
本人	腎臓・副腎	男性 40代	がん患者さんを励ますことができた、定期検診を受けるようにしようとの見解を幾つももらった。
本人	リンパ腫	女性 60代	閲覧者からのメールで私自身がはげまされたし、書くことで自分の考えの整理もできた。



10.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)前問のように考える理由を教えてください。(つづき)

■情報発信して「良かった」

本人	肺	男性 20代	タバコを吸わなければ癌にならないと信じているようだったから、私はタバコを吸ったことがないのにがんを発症したのでそのケースをリアルタイムで伝えられて良かったように思う反面、若年者のがん患者に対する保険なりに入っておく余裕がなかったので、今からその情報をつかむ人にとっては、良かった、いいものを伝えられたように感じます。
本人	前立腺	男性 60代	早期発見者にとっては術式の選択範囲が多く、転移も無いことから経済的にも良い。このことは個人のQOL維持に役立つのみならず、医療資源の浪費防止にもなり、ひいては国家経済の無駄な支出防止にもなる。
本人	乳房	女性 50代	自分と同じような考えの人がいることがわかった。また、そうではない人もいるとわかった。治療 の選択肢が広がり、医師に自分はこうしたいという意見を言うことができると言えたこと。
本人	胃	男性 70代	例えば、胃がんでは術後ダンピング(ダンプカーと同じ語源で、食べたものが、胃で消化されず、 すぐに腸に落ちてしまい、ムカムカする症状)があると理解してもらうには、情報発信しかない。
本人	膀胱	男性 60代	癌について、まだまだ正確な情報が少なく、また決定的な治療法が確立されていない現状、多くの人に伝え、また情報をもらう。このことが大切なのではないかと確信しているので。
本人	肺	男性 60代	皆未知の世界の為、いろいろ悩みを持っているので、悩みが整理できていない人が多い。自分のアドバイスでそれぞれにどう対応していいかの方向性と整理が出来たと思っている。
本人	腎臓•副腎	男性 60代	私と同じように早期発見、治療で他への転移なしに現在元気に暮らしているという複数の人から メールや葉書をもらった。皆さん周囲への積極的な発信をしようと言っている。
本人	子宮	女性 30代	子宮がんだったので、子どもを持つことをあきらめていた人なども、術後に子どもを産んだという 私の体験を見て、希望が持てたと連絡があり、嬉しかったから。
本人	前立腺	男性 70代	手術後の経過も良好で、現在は健康で趣味の登山も以前のように行っており、近所の人々や友人・知人が「ガンになっても怖がることないねー」と言っている。
本人	子宮	女性 60代	外見ではわからない悩みや病気を抱えていることを周囲の方に分って貰えたことは良かったと思います。また、同じ仲間との仲間意識も・・・
家族	緊臓・副腎 女性 50代 家族や自分の悩みを系統立てて考えることができたし、他の患者さんの役にも立ってい		家族や自分の悩みを系統立てて考えることができたし、他の患者さんの役にも立っている(情報が増えたということで)と感じられたから。
本人	乳房	お互いの状況を理解し合えるし、同じ情遇であることで励ましなえる。自分だけじゃかいと	
本人	男 男 カスター ある友人から、自覚症状について細かく聞かれ、その友人の自覚症状とそっくりだった		ある友人から、自覚症状について細かく聞かれ、その友人の自覚症状とそっくりだったので、友 人は病院に行くと言っていました。
本人	大腸・直腸	男性 60代	リアクションがなくとも、参考にしたい人は必ず目を通すと確信している。そして、少しでもお役に 立てれば幸いと思っている。
本人	咽頭•喉頭	男性 60代	同じ病気をもった者同志で現在の環境、生き方などで励まし、生きてる実感がし、これからも頑 張って生きていける感じがする。
本人	乳房	女性 40代	聴く方のお役にたてればっと思っていたが、逆に励ましていただいて、希望、勇気、元気など 様々なものをいただきました。
本人	甲状腺	男性 40代	がんという病気が決して、自分から遠いものでも、絶望的な難病でもないと感じてくれた人がい たから。
本人	すい臓	男性 40代	こちらの様子を時々伝えるだけで相手方の生活上には何の影響もかけず普通に生活をして貰 えるから。
本人	大腸·直腸	女性 60代	検査が大事である事が伝えられたので、知人が検査を受けに行ったりしてくれて感謝されたから。
本人	精巣	男性 60代	ガンよりも多くの人は前立腺肥大の関心が高い。早く診察を受けることががんも見つかりやすい。
本人	乳房	女性 50代	専門家と知り合いになれたり、同病の人と実際に会って話をして更に病気の知識が身に付いた。
家族	胃	女性 50代	近年特に増えている乳がんについて、検診や一刻も早い診断の重要性を分かってもらえたから。
本人	大腸·直腸	男性 60代	自分の経験を伝えることで、それがちょっとでも何かの役に立てるのであればうれしいから。
本人	子宮	女性 30代	自分の近くに癌になった人がいるということで本人も今まで以上に意識してくれてると思う。
本人	前立腺	男性 70代	ドックでは指摘されない個々の精密検査を受診するように、努力していると多々報告有り。
家族	胆道・胆のう	男性 60代	リアクションは無かったもののポリープが見つかった時思い起こしてもらえると思った。



10.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)前問のように考える理由を教えてください。(つづき)

■情報発信して「どちらでもない」

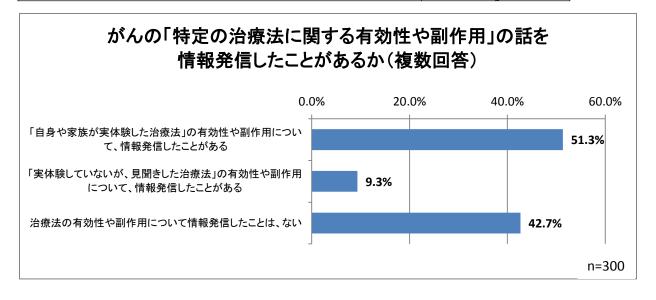
本人	食道	男性 40代	あまりリアクションが返ってこない。返ってくるようにするためには状況を詳細に表現しなければならず、この病気は個人おのおの抱えている問題が多岐に渡るため、SNSなどのツールではやり取りしにくく、相当相手との信頼関係が築けないと情報交換ができないことがよくわかったから。
本人	胃	女性 40代	体調が悪くなった時など、ブログ発信が停止してしまって、周囲に必要以上の心配をさせてしまう。癌や死に対しての考え方の違いを執拗にメールで語られて辟易することがある。文章だけで 私を判断されてしまって、誤解が多いのも困惑している。
家族	肺	女性 60代	みんなが同じ環境で生きている訳ではないし 考え方や価値観もちがう・・・ガン検診を受けられる人もいれば 結果が怖いからイヤだという人もいるし、経済的に負担をしたくない人もいる。
本人	乳房	女性 40代	手術前と後とで、人間関係は変わりません。ブログにコメントを残してくれた人は前からの付き合いで乳がんの先輩?(5年経過)。その方からもたくさん情報をもらった。
本人	脳	女性 40代	後で読んでみて、なんでこんなこと書いたんだろう。。。とか当時の辛かった出来事や周りに迷惑かけたこと・・・等、多々甦って返ってブルーになった。
本人	前立腺	男性 70代	ドクターサイドには何らかのデーター提供になったかもしれないので意味はあったと思うが患者 視点では知りたい情報が得られないのは不満かな?
本人	肺	男性 50代	身近に癌患者がいないため、反応がなかった。情報提供できたことに自己満足するしかなく、結果、可もなく不可もなくとなった。
本人	前立腺	男性 60代 あまり反応がなかった。その後、質問もされない・・・日本人は自分だけは癌にかからないとい変な思いがあるような気がする。	
本人	前立腺	男性 70代	それで自分の状況がよくなるわけではない。自分の経験が他のすべての人にも 通用するとも思えない。
本人	子宮	女性 50代	自分の気持ちと記憶の整理にはなったが、特に反響がなかったので、良かったのかどうかは不明。
本人	乳房	女性 50代	一番の不安は仕事のことだったので、それは情報発信したからといってどうなるわけでもない。
本人	乳房	女性 30代	治療が終わるまで続けるつもりだったが、大事な人が同じガンで亡くなって書けなくなった。
本人	大腸•直腸	男性 60代	いまや半分の人がガンを経験する時代。ブログで公開したとしても、とりたてて珍しくもない。
本人	前立腺	男性 70代	自分のがん治療の経験が、ほかのガン患者の方の役に立つのかどうか、実際のところは自信がない。



11.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)がんの「特定の治療法に関する有効性や副作用」の話を情報発信したことがありますか。(複数回答)

具体的な治療法の有効性や副作用に関する情報発信については、慎重さが伺える。「自身が経験したもの」であっても治療法に関する内容は、情報発信した人のうち5割の人(全有効回答比では5%の人)しか発信していない。 「自身が経験していないもの」は1割の人しか発信していない。

_n=300		(MA)
	n	%
「自身や家族が実体験した治療法」の有効性や副作用について、 情報発信したことがある	154	51.3%
「実体験していないが、見聞きした治療法」の有効性や副作用について、 情報発信したことがある	28	9.3%
治療法の有効性や副作用について情報発信したことは、ない	128	42.7%
小計	310	103.3%
計	300	

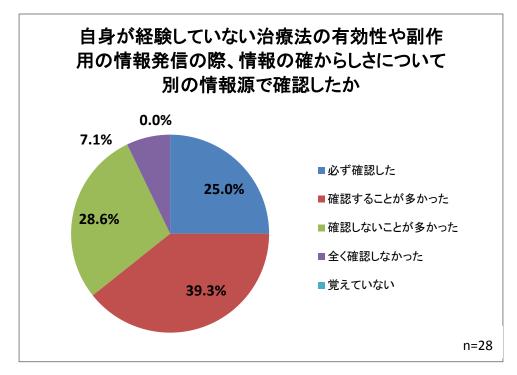




12.(「自身が経験していない治療法に関して情報発信の経験あり」回答者のみ)その治療法の有効性や副作用の 話を情報発信した際に、その情報の確からしさについて、別の情報源で確認しましたか。

自身が経験していない治療法について情報発信した人のうち、3人に2人はその情報発信時には別の情報源で裏取りをしていた。「必ず確認した」「確認することが多かった」の合計で64%であった。

_n=28		(SA)
	n	%
必ず確認した	7	25.0%
確認することが多かった	11	39.3%
確認しないことが多かった	8	28.6%
全く確認しなかった	2	7.1%
覚えていない	0	0.0%
計	28	100.0%



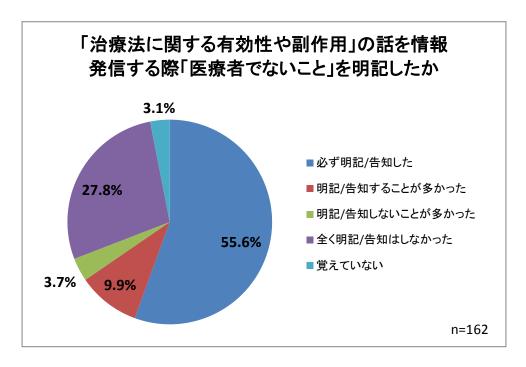


13.(「治療法の有効性や副作用について情報発信の経験あり」回答者のみ)「治療法に関する有効性や副作用」の話を情報発信した際に、あなたが「医療者でないこと」を明記しましたか。

情報発信時に、発信者の立場(「医療者ではない」)を明確にした人は3人に2人。「必ず明記」「明記することが多かった」の合計で65%であった。

注:「私は医療者である」=5.8%を、母数から除外して集計

n=162		(SA)
	n	%
必ず明記/告知した	90	55.6%
明記/告知することが多かった	16	9.9%
明記/告知しないことが多かった	6	3.7%
全く明記/告知はしなかった	45	27.8%
覚えていない	5	3.1%
計	162	100.0%

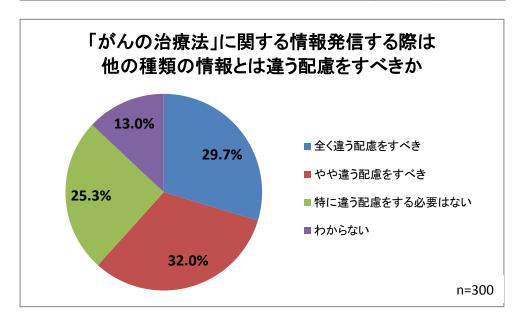




14.(「情報発信の経験あり」回答者のみ)「がんの治療法」に関する情報発信する際には、他の種類の情報(例えばグルメ情報)を発信する場合とは違う配慮をすべきだと思いますか。

「がんの治療法」情報」は特殊なものと考える人が6割であった。グルメ情報などと「全く違う」「やや違う」配慮をすべき、とそれぞれ3割ずつの人が考えている。「わからない」と判断保留する人も13%と少なくない。

n=300		(SA)
	n	%
全く違う配慮をすべき	88	29.7%
やや違う配慮をすべき	96	32.0%
特に違う配慮をする必要はない	76	25.3%
わからない	39	13.0%
計	300	100.0%





15.(「がんの治療法に関する情報発信は他の情報発信とは違う配慮をすべき」回答者のみ)具体的にはどんな配慮をすべきと思いますか。

具体的に配慮すべき内容としては、「正確性」「プライバシー」などを挙げる人が多い。ただし「当事者の気持ちを考えて」「不安にさせない」「主観的、感情的にならない」など、相手次第では反対の受け取られ結果になる可能性があることを言う人も多く、現実的には難しい内容だ。また、"安易に大丈夫と言ってはいけない"など、ケースバイケースの判断をしたうえでの対応を要求する人も少なくない。

主な回答内容(内容読み取りによるもの)

正確で信頼性のある情報を伝えること
がん当事者の気持ちを考えて発信すること
プライバシーを重視すること
主観的、感情的にならないこと
必要以上に不安にさせないこと
軽はずみではなく、慎重に書くこと
言葉や表現を選ぶこと

「すべき配慮」とされたものから文字数が多い回答内容を以下に掲載する。

本人	子宮	女性 40代	食品などはコミュニティ感覚が必要ですが、癌などの内容は精神的なケアも必要とするのではないでしょうか。自分は検査後告知で直接聞いたけれども最初は意識できるほど理解するまでに結構な時間がかかりました。治療後も深刻なものではないこともあって周囲も深刻ではなく、治療後の検査時に始めて自分の体に何が起きたのか実感して恐怖に支配されました。誰も心をケアしてくれるわけでもなく結婚したばかりで癌という内容に目の前が絶望的に。現在は口に出して誰かに伝えることは出来ますが、あのときの恐怖は伝えきれるものではないです。配慮ということならば乗り越えたといっても強く押しでた会話ではなく、経験のない人達が会話を中心とするものでもなく、経験者やこれから携わっていく方たちとの会話の中でまとめていくことが良いと思います。一つ・二つの題材を前に様々な回答の中から数個の内容にまとめてみるという形にするとか、経験と言っても人それぞれ期間や症状も違います。そのなかで一つのものを題材にまとめると言うのはそれこそ配慮に欠けてしまうかもしれないという思いがあります。
本人	肺	男性 20代	似非の情報であったり、体験したことのない人が想像で作られた情報であったり、 情報社会の中で惑わせるものが多い。 食事療法にしても、体良くいえば、バランスよく食事してくださいということを 一つの素材に着目させて、誘導するような記事を多く見かける、 そこにはなんの根拠もないのに。がん患者よりも、その周りの人々が困惑する情報を載せたり 惑わせることで社会で受けた鬱憤を晴らそうとする人もいました。 正しい情報を載せたいのなら、ガンなどの重たい病に至っては、有料化ないしは、それなりに医療に携わ る人のみにしたほうがいい気がします。
本人	乳房	女性 40代	グルメ情報などによくある、クチコミなどは、全くあてにならないと思う。 正確な情報を、患者さんのそれそれの状態に合わせて提供する必要があると思うので、紛らわしかったり、 誤った情報を発信したり、それによって誤った情報の理解を患者さんが行った場合、適切な治療が行わ れることを阻害する可能性があります。 また、思い込みや誰でも同じだと思うような事になると、精神的な部分での問題が発生する可能性もある ため責任は重いと思う。 生存期間に大きく影響する可能性もあるので、絶対にきちんとした配慮が必要。
本人	前立腺	男性 60代	病気の度合いや治療方法は個人によって大きく異なることが多く、自分の経験がそのままあるいはある程度、他人に当てはまることは少ないため、自分の経験を述べたところで、他の人にとってはあまり当たらないし、害にさえなってくることが多いと思われる。従い、自分の経験、治療方法を関係者に伝えるという意思があっても、それは特定の人にとってはいい効果がある場合もあろうが、誤解による悪影響のほうが多いよいに思う。



15.(「がんの治療法に関する情報発信は他の情報発信とは違う配慮をすべき」回答者のみ)具体的にはどんな配慮をすべきと思いますか。(つづき)

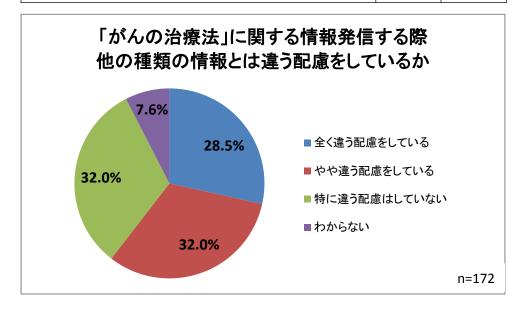
家族	大腸·直腸	女性 40代	タウン情報やバーゲンセール情報と同一のスペースに掲載されていたら、情報源として本当なのか?ゴシップ的な軽いノリで書いてあるのかと疑ってしまう。きちんとした特集として、信頼ある医師や専門機関からの取材や情報提供のものであると、一目でわかるような書き方じゃなければ、良くて読み流すだけ程度になってしまう。ただし、不安をあおるだけのような見出しばかり派手なのもいただけないが。
家族	大腸·直腸	女性 40代	一般的に、日ごろからテレビ等で「がん」という言葉を聞くことが多くなってきたが、非常にメンタルなことなので、実際の患者や家族は不安でいっぱいだと思う。 情報が多過ぎて、正解か不正解かの判断も、わからなくなってしまうことがあると思うので、きちんとした統計、実績をもとに、不安をあおるような情報は、決して流さないような配慮をして頂きたいと思う。
本人	乳房	女性 40代	専門的なこと(治療法、薬の効能)は話すべきではないと思う。医療は日進月歩ですし、私の治療、薬が他の方に有効かどうか、がんにも種類が沢山あるし(乳がんでも細かく分けると7種類ある)、ドクターによって治療法も変わるので安易に公開するべきではないと思う。専門的なことはプロにお任せし、心のリフレッシュをしていただけたらと思い、話をしています。
本人	リンパ腫	男性 40代	いまさらどこの店(医者)がいいかなんて情報は蔓延しているのでいらないでしょ? 私のように告知がしっかりしていなかったために精神的に病んでしまった人たちに、次の道の一例を示せればいいと思う。その時の病状というたどり着く場所は一つしかないけど、そこにたどり着くための往く途は幾つもあるはずだ。 その途の一つだけでも紹介できれば良いと思う。
家族	胃	女性 40代	自分が情報を得、感じたことを発信するわけだが、他と違い人の生死にかかわるわけだから「個人の主観」という逃げ道が大きくなりすぎてはいけない。正確性に欠ける情報は発信すべきでないし、読む方は自分に受け入れられる特定のケースだけを信じることも多い。あくまで多くの事例の一つのケースであることを書き手が念を押して発信すべきである。
家族	膀胱	男性 50代	グルメ情報では直感的で個人的印象を表現する事で受け側への配慮は重要ではないと思うが、 がん治療に関する情報発信では間違った情報を伝えないよう配慮が必要です。治療を受けて感じた事、 感想は個人差があることを伝えておくことが大切で、医師の治療方針を否定するような発言はしないよう にすべきです。
本人	乳房	女性 40代	食べ物の味は食べる人の好みに左右されるし、またそれは生死に直結するようなものでもないので誰が何を言ってもかまわないと思うが、病気の治療は、例えば民間療法などのように科学的根拠のないものまで、一部の人には効果があるのかもしれないが、怪しげなものまで紹介されては混乱の元だと思うから。
家族	前立腺	女性 40代	治療法に関してもメリット・デメリットをきちんと説明したうえで、さらに効果も個人差があること等を踏まえるべき。批判となるような内容は医師・病院側には不利益になるが、一方、治療を受ける患者側としてはそのような負の情報もきちんと知りたいので、そこもむやみやたらに規制しないことも必要。
本人	子宮	女性 50代	自分の場合は医療情報ではなく、「体験談」であることを明記した。 また患者にとっては深刻でデリケートな問題であるため、表現等も配慮すべきだと思う。 逆にいうと、客観的な医療情報は別として、がん体験のない人がうかつなことを書いてほしくない。(例:大丈夫ですよ、等の励ましの言葉)
本人	乳房	女性 40代	私は乳ガンだったので、手術してからがスタートでした。 辛い治療が続き気分も鬱状態になってる状態で楽しい情報と一緒にされると更に落ち込んでしまう。 ガンの種類によってその後の治療は人それぞれ違いがあると思うが、健康な人にはわからない苦しみが あるので配慮が必要であると思います。
本人	子宮	女性 30代	間違った情報を流さないようにすること。 子宮頸がんの場合、人によっては「遊んでいる人がかかる病気」という 偏見を持った人もいるので、その偏見を持たれないようにする配慮。 患者さんの中には非常にナーバスになっている人もいるので、文章の表現や扇情的な 文章は避けるべきだと思う
家族	肺	男性 40代	グルメ情報など直接人命や日常生活に支障をきたすものではない場合は個人的感想や推測を交えた情報でもさほど重大な問題にはならないが、ガン等疾病関連情報は生死に関わるので、科学的医学的根拠の乏しい民間療法など、不確かな情報を(例え効果が見られたと思われても)発信すべきではない
本人	卵巣·卵管	女性 40代	いち患者の視点であり、医療従事者でない意見、ということは書いてあってしかるべきだとは思います。治療をする側でなく、「される側」の「体験談」であり「個人の感想」であることが記されていてよいと思います。特に副作用は個人ごと大きく違うので「あくまでも私の体験」になるからです。
本人	子宮	女性 50代	嗜好の問題ではなく、直接命に係わる情報なので、必ず正確でなければならないし、安易に希望をもたせる様な内容であってはいけない。がんの種類・性格・治療法も多岐にわたり、経験者であっても、その中の1部にしか触れていないことを肝に銘じて、貴重な経験情報を発信するべきだと思う。



16.(「治療法の有効性や副作用について情報発信の経験あり」回答者のみ)「がんの治療法」に関する情報発信する際に、他の種類の情報(例えばグルメ情報)を発信する場合とは違う配慮を、実際にしていますか。

前々問の「べき論」の通りに「実践」しているのかを確認するための設問だが、ほとんどの人が「べき論」通りに「実践」をしている。(「全く違う配慮」をすべきとした人は実際に「全く違う配慮」をし、「違う配慮をしない」べきとした考える人は実際に「特に違う配慮をしていない」)

n=172		(SA)
	n	%
全く違う配慮をしている	49	28.5%
やや違う配慮をしている	55	32.0%
特に違う配慮はしていない	55	32.0%
わからない	13	7.6%
計	172	100.0%

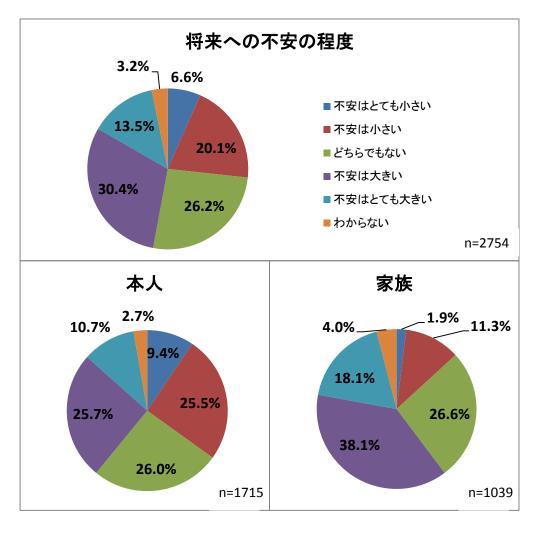




17.あなたの「将来への不安」の程度を教えてください。

将来に対する不安は、本人よりも家族の方が大きい。本人では、不安が「小さい」人と「大きい」人の割合がほぼ同じだが、家族では「大きい」と回答する人が4倍以上多かった。

n=2754						(SA)
	本人	家族	n	本人	家族	%
不安はとても小さい	162	20	182	9.4%	1.9%	6.6%
不安は小さい	437	117	554	25.5%	11.3%	20.1%
どちらでもない	446	276	722	26.0%	26.6%	26.2%
不安は大きい	440	396	836	25.7%	38.1%	30.4%
不安はとても大きい	183	188	371	10.7%	18.1%	13.5%
わからない	47	42	89	2.7%	4.0%	3.2%
計	1715	1039	2754	100.0%	100.0%	100.0%

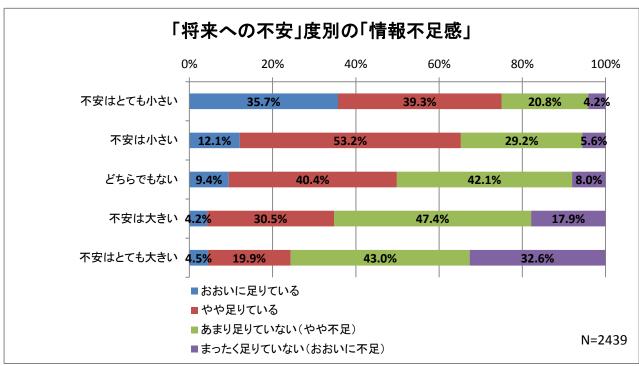


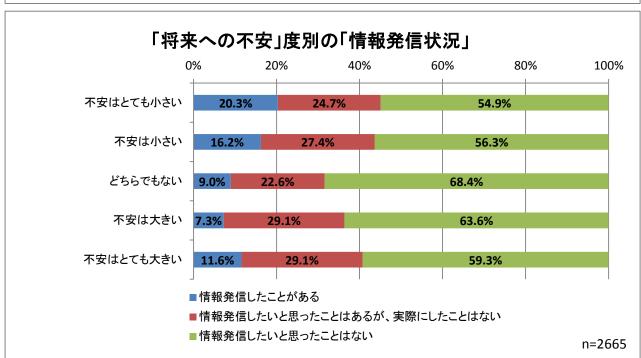


17.あなたの「将来への不安」の程度を教えてください。(つづき)

「将来不安感」は、「情報不足感」と相関関係にあり(相関係数0.34)、情報が足りないと感じる人ほど将来に不安を感じていることがわかった。

「情報発信状況」とはあまり相関が強くないが、「とても安心(不安が小さい)」または「とても不安」なほど、情報発信意欲が大きく、この傾向は患者本人、家族のいずれでも同様であった。中庸の人は情報発信欲があまりない。



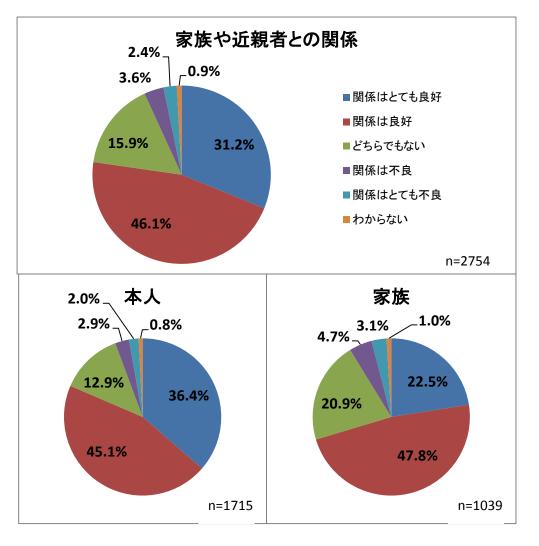




18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。

「家族や近親者との関係」については、3割が「とても良好」である。「良好」もあわせると77%が良い関係にあるようだ。

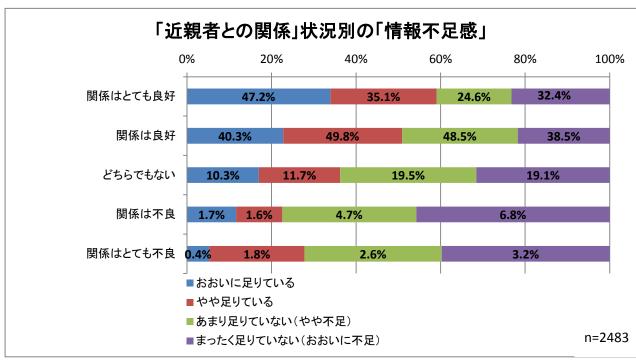
n=2754		(SA)
	n	%
関係はとても良好	858	31.2%
関係は良好	1270	46.1%
どちらでもない	438	15.9%
関係は不良	98	3.6%
関係はとても不良	66	2.4%
わからない	24	0.9%
計	2754	100.0%

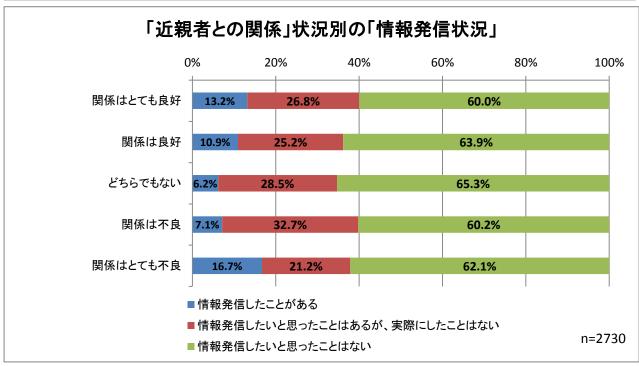




18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。(つづき)

「情報不足感」とは弱い相関がみられるが、「情報発信状況」とはあまり関連性がみられない。



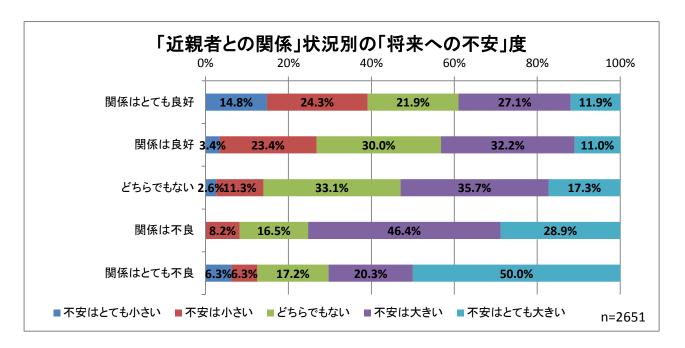


※「わからない」回答者は除外して集計



18.あなたの「家族や近親者との関係」の状態を教えてください。(つづき)

なお、近親者との関係が不良な人ほど「将来への不安が大きい」傾向にあった。



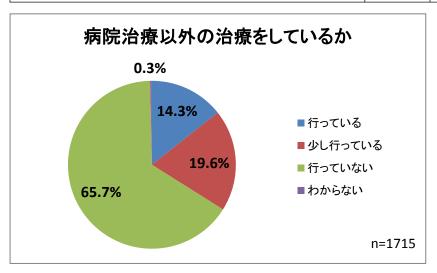
※「わからない」回答者は除外して集計



19.(患者本人のみ)現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)」をしているか教えてください。

いわゆる民間療法など、病院治療「以外」の治療の実施状況を確認した。すると、34%の人が多かれ少なかれ「行っている」と回答した。

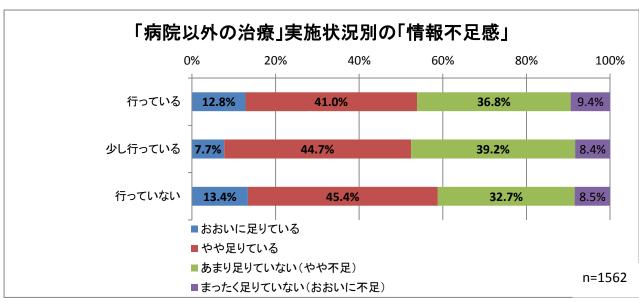
n=1715		(SA)
	n	%
行っている	246	14.3%
少し行っている	336	19.6%
行っていない	1127	65.7%
わからない	6	0.3%
計	1715	100.0%

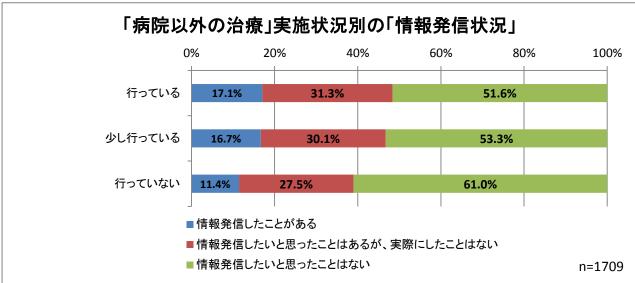




19.(患者本人のみ)現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)」をしているか教えてください。(つづき)

民間療法の実施度合いは、「情報不足感」とあまり関係がない。つまり情報を得ていると感じている人ほど、または足りないと感じている人ほど民間療法に手を出すというわけではない。「情報発信状況」ともあまり強い相関がみられない。



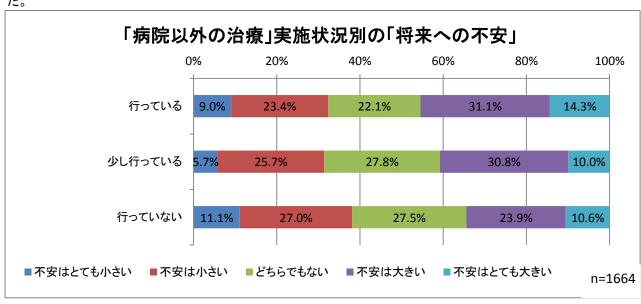


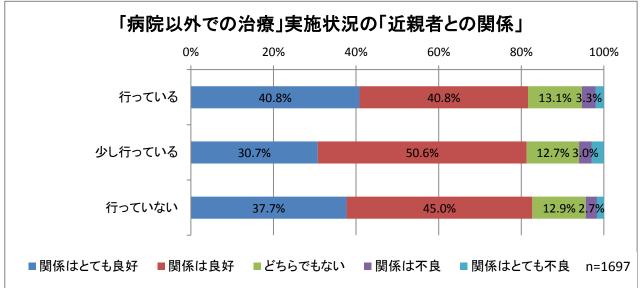
※「わからない」回答者は除外して集計



19.(患者本人のみ)現在、「病院治療以外の治療(例:健康食品やサプリメントの摂取、針灸など)」をしているか教えてください。(つづき)

なお、民間療法を行っているか否かと、「将来への不安」や「近親者との関係性」の間にはあまり関係がなかった。







本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴

TEL: 03-3500-3235 / E-mail: info@glife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名:株式会社QLife(キューライフ)

所在地:〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ボッシュビル赤坂7F

代表者:代表取締役山内善行

設立日:2006年(平成18年)11月17日

事業内容:健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 医療と生活者の距離を縮める

URL: http://www.qlife.co.jp/